

リアホナ



イエス・キリストの神性
12ページ

心からの贈り物
26ページ

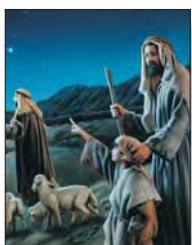
クリスマスとは何でしょう
フレンド, 4ページ

リアホナ



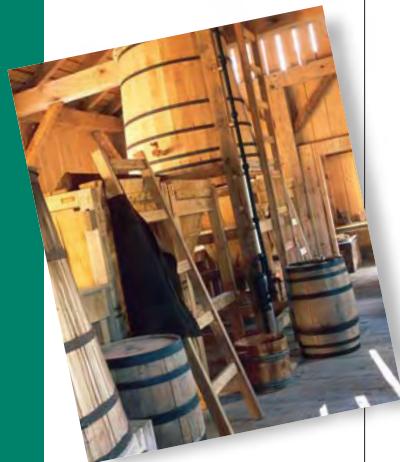
表紙

表紙——「母と子」J・カーカ・リチャーズ
画。裏表紙——写真／クリスティーナ・スマス



「フレンド」表紙

サイモン・デューイ画。ユタ州アメリカンフォーク、アルタス・ファイン・アート社の厚意により掲載。



「復元されたカートランド」
32ページ参照

一般

- 1 大管長会クリスマスマッセージ
- 2 大管長会メッセージ——クリスマスの贈り物
第一副管長 トマス・S・モンソン
- 12 福音クラシック——イエス・キリストの神性
十二使徒定員会 オーソン・F・ホイットニー
- 18 あふれる恵み
- 25 家庭訪問メッセージ——賢明に生活し、じゅうぶん什の一とささげ物とを納めることにより、備える
- 29 イエスのたとえ——「わたしはまことのぶどうの木」
地域幹部七十人 アンソニー・R・テンプル
- 32 復元されたカートランド
- 40 末日聖徒の声
 - 牧師と過ごしたクリスマス ブレーン・K・ガーリング
 - 「祝福文を読みなさい！」 セリア・アウグスト・デ・ソーザ
 - 運転手からの贈り物 ノーマ・J・ブロードヘッド
- 48 『リアホナ』2003年12月号の活用法

青少年

- 6 手作りのクリスマス 七十人 ジーン・R・クック
- 10 あなたが好きな10の理由 ルイス・ズーリゲン・ジョーゲンセン
- 24 比べようのない喜び エマ・ウィザーズ
- 26 質疑応答——お店で買うよりもっと意味のあるものをクリスマスプレゼントとして家族に贈りたいのですが、何がよいでしょうか。
- 44 季節を選ばない贈り物 七十人 ダーウィン・B・クリステンソン
- 47 御存じでしたか？

フレンド

- 2 世の光——大管長会から世界中の子供たちへのクリスマスマッセージ
- 4 分かち合いの時間——クリスマスとは何でしょう
ビッキー・F・マツモリ
- 6 ニルスのベッド ダイアン・L・マンガム
- 8 分かち合いの時間 クリスマスのカレンダー
 - クリスマスとは何でしょう
- 10 新約聖書ものがたり
 - でんどうをおえるパウロ
- 15 特別な証人——神の証人となる
十二使徒定員会
ヘンリー・B・アイリング
- 16 しんでんカード

「ニルスのベッド」
フレンド6ページを見ましょう



末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジエームズ・E・ファウスト
 十二使徒定員会:ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オース、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホーランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長:デニス・B・ノイエンシュワーダー

顧問:モンティ・J・プラフ、J・ケント・ジョリー、W・ロルフ・カー、スティーブン・A・ウェスト

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ピーター・D・ケーブ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーグ

編集主幹:リチャード・M・ロムニー

編集主幹補佐:マーク・K・ガードナー、ビビアン・ポールセン、ドン・L・サール

編集スタッフ:コレット・ネベラー、オース、スザン・パレット、ライアン・カーリング・スティール、クーパー、ラーリン・ポーター、ガント、シャナ・ガズナビ、ジェニファー・L・グリーンウッド、リサ・アン・ジャクソン、キャリー・カステン、メルビン・リーピット、サリー・J・オデカーク、アダム・C・オルソン、ジュディス・M・バーラー、ジョナサン・H・スティーブンソン、レベッカ・M・テーラー、ロジャー・テリー、ジャネット・トマス、ポール・バンデンバーグ、ジュリー・ワーデル、キンバリー・ウェッブ、モニカ・ウイークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:J・スコット・クナーセン、スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:ケリー・アレン・プラット、フェイ・P・アンドラス、C・キンボル・ボット、ハワード・ブラウン、トマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、フレント・クリステンセン、ケリー・リン・C・ヘリン、キャスリン・ハワード、デニース・カービー、タッド・R・ピーターソン、ランドール・J・ピクストン、マーク・W・ロビソン、ブランド・ティア、カリ・A・トッド、クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラード

印刷ディレクター:クリー・K・セジウック

配達ディレクター:クリス・T・クリスティンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通料/大会料200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
 Room 2420, 50 East North Temple Street,
 Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
 Eメール: cur-liahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉、「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスラント語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インデニシア語、ウクライナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、キリバス語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、タミル語、中国語、チベト語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ボーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リニアア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります)
 ©2003 Intellectual Reserve, Inc. 版権所有。

印刷所:日本

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
 原題—International Magazines December 2003.
 Japanese. 23992 300

For Readers in the United States and Canada:

December 2003 no. 12 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



大管長会 クリスマスマッセージ

この聖なる季節に、わたしたち大管長会は、神の御子イエス・キリストの驚くべき誕生が厳粛な事実であることを再び断言します。

また、かつて地上に生を受けた人の中で、主が唯一完全な御方であられることを証します。主は「よい働きをしながら……巡回され」(使徒10:38)、「わたしに従ってきなさい」(ルカ18:22)とすべての人を招いておられます。

人類を憐れみ深く思いやりのある行為へと駆り立てるのは、主の神聖な影響力です。「われわれの病を負い、われわれの悲しみをにな[われ]た」主は(イザヤ53:4)、わたしたち一人一人を靈的に奮い立たせて、貧しい人や孤独な人、虐げられた人々に、愛を込めて手を差し伸べるように促しておられます。

このクリスマスの季節に、「平和の君」を思い起こすことができますように。主はガリラヤの海の暴風を静め、人生の嵐の中にいるわたしたちに平安を与える力を持っておられます。そして主の道を歩もうと努めるときに、来る1年を通じて、わたしたちの心も家庭も、主の平安に満たされますように。■



上——「嵐を静めるキリスト」ロバート・T・パレット画、右上——「イエスの降臨」の一部。カール・ヘンリック・ブロック画、デンマーク、ヒレスのフレゼレクスボー城内にある国立歴史美術館の厚壁により掲載。

クリスマス の贈り物



第一副管長
トマス・S・モンソン

モルモン書の第三ニーファイには次のように記されています。「頭を上げて、元気を出しなさい。見よ、時は近い。今夜、しるしが示され、明日、わたしは世に来る。そしてわたしは、聖なる預言者たちの口を通して語ってきたすべてのことを成就することを、世の人々に示す。」¹

ベツレヘムでの幼子の誕生とともに、大いなる贈り物、どんな武器よりも力強いもの、カイザルの貨幣よりも長く存続する富がもたらされました。この幼子は王の王、主の主、約束のメシヤになられる御方、つまりこの方こそ神の御子イエス・キリストだったのです。

主からの招き

馬屋でお生まれになり、かいばおけに寝かされたこの幼子は、死すべき人として地上で生活し、神の王国を確立するために、天から降って来られた御方です。地上で務めに携わっておられたときに、より高い律法を人々に教えられました。この御方の栄えある福音は世の人々の考え方を変えました。この御方は病人を祝福し、足の不自由な人を歩けるように、目の見えない人を見るように、耳の聞こえない人を聞こえるようにされました。また、死んだ人を生き返らせることさえされたのです。

この御方の憐れみのメッセージ、知恵に満ちた言葉、人生の教訓に対する人々の反応はどうだったでしょうか。この御方を認めた人はごくわずかでした。しかしこの人々は、主の足を涙でぬらし、御言葉を学び、模範に従いまし

た。

幾世代にもわたり、イエスは同じメッセージを与えてこられました。美しいガリラヤの海辺で、ペテロに、「わたしについてきなさい」² と言われました。いにしえのピリポにも、「わたしに従ってきなさい」³ と呼びかけられました。収税所に座っていたレビびとにも、「わたしに従ってきなさい」⁴ との指示が与えられました。そして、あなたにもわたしにも、耳を傾けさえすれば、「わたしに従ってきなさい」という同じ招きが与えられるのです。

今日、主の足跡に従うとき、わたしたちにも人々の人生に祝福をもたらす機会があります。イエスはわたしたちに、自分自身をささげるよう求めています。「見よ、主は心と進んで行う精神とを求める。」⁵

確かに、自分自身をささげる機会はどこにでもあります、見過ごしてしまうこともあります。喜ばすべき心があります。思いやりをもって語るべき言葉があります。渡すべき贈り物があります。なすべき行いがあります。救うべき人々がいます。「行って、孤独な人、悲しんでいる人を喜ばせましょう。行って、涙を流している人、疲れている人を慰めましょう。行って、道々思いやりある行いをしましょう。ああ、今日、世界をもっと明るくしましょう。」⁶

ある賢明なクリスチャンはかつてこう勧めました。「わたしたちにとってクリスマスが、お金を費やす時とならず、その精神を心に留める時となりますように。」⁷ クリスマスの精神を心に留めるなら、キリストの精神を心に留めることになります。クリスマスの精神は、すなわちキリストの精神だからです。

イエスはわたしたちに、
自分自身を
ささげるよう求め
ておられます。
「見よ、主は心と進んで
行う精神とを求める。」
確かに、自分自身を
ささげる機会は
どこにでもありますが、
見過ごしてしまう
こともあります。



クリスマスに関する大切な本

1年のこの時期に、わたしがクリスマスに関する大切な本を読み返し、著者のすばらしい言葉を深く思い巡らすことは、家族にはもうよく知られています。最初はルカによる福音書、すなわちクリスマスの話です。次いで、チャールズ・ディケンズの『クリスマス・カロル』、最後に、ヘンリー・バン・ダイクの『住まい』(The Mansion)です。

こうした靈感あふれる書を読むと、いつも涙が込み上げて

きます。これらの書は、皆さん的心を打つと同じように、わたしの内なる魂を感動させるのです。

ディケンズはこう記しています。「僕はクリスマスがめぐって来るごとに……とにかくクリスマスはめでたいと思うんですよ。親切な気持ちになって人を赦してやり、情ぶかくなる楽しい時節ですよ。男も女もみんな隔てなく心を打明け合って、自分らより目下の者たちを見てもお互いみんなが同じ墓場への旅の道づれだと思って、行先のちがう赤の他人だとは

思わないなんて時は、一年の長い暦をめくって行く間にまったくクリスマスの時だけだと思いますよ。」⁸

ディケンズの古典『クリスマス・カロル』の中で、すでに改心した人物、エブニゼル・スクルージは最後にこう述べています。「私は心からクリスマスを尊び、一年中その気持で過ごすようにいたつもりです。私は過去、現在、未来の教えの中に生きます。この三人の幽靈さま方は私の心の中で私をはげましてくださいます。お三方からお教えいただきましたことに閉め出しなど喰わせません。」⁹

主であり救い主であるイエス・キリスト、すなわち「悲しみ」を担い、「悲哀を知っている」¹⁰ 御方は、心を悩ましているすべての人に語りかけ、平安の贈り物を授けてくださいます。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」¹¹

心から与える

主は、全世界で奉仕する大勢の宣教師を通じて、御言葉を伝えておられます。宣教師たちは、よきおとずれの福音と平和の御言葉を宣言しているのです。「わたしはどこから来たのか。わたしが存在する目的は何か。死後どこへ行くのか」などという難しい疑問に、主の特別な僕たちが答えを与えています。「平和の君」、すなわち主イエス・キリストに仕える召しを受けている人々が大胆に、しかし謙虚な態度で真理を説くとき、心の迷いは消え去り、疑いは姿を消し、不安はなくなります。主の贈り物が一人一人に授けられます。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその中にはい[る]であろう。」¹²

心から与えることについて、近代の大管長3人の経験を通して学んだ例を幾つかご紹介しましょう。わたしは副管長としてこれらの人々に仕える特權を得ました。

まず、エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)です。彼は第二次世界大戦後に大管長から与えられた責任について述べています。ベンソン大管長は、妻と家族を置いて、ドイツやその他の国々に住む被災した教員たちを訪れるこ

とになりました。神から靈感を受けた福祉プログラムによって、文字どおり、飢えた人々に食を与え、涙している人々を慰め、出会ったすべての人を天に近く引き上げました。それから何年もたって、ドイツのツビッカウでの奉獻式の折に、一人の年老いた会員が目に涙を浮かべて、わたしにこう言いました。「ベンソン大管長に、わたしたちが大管長を愛していることをお伝えください。大管長はわたしたちの命、わたしと妻と子供たちと、多くの人々の命を救ってくださいました。

大管長は、将来への希望と確信を実際に取り戻させるために、神から遣わされた天使のようでした。あなたを愛しています、とお伝えください。

次に、ハワード・W・ハンター大管長(1907-1995年)です。ハンターハンター大管長はあるとき、非常に痛ましく困難な状況にある夫婦と対面していました。最後に、大管長はこう述べました。「わたしはいつも、人々を気落ちさせるのではなく高めて、主に従えるように主の道を示したいと考えています。」続いて、この聖い指導者により、赦しの贈り物、思いやりの贈り物、励ましの贈り物が、苦しんでいるその夫婦に惜しみなく与えられました。

3番目は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長です。ヒンクレー大管長は旅をすることの多い預言者であり大管長です。大管長の存在、模範、証が世界中に伝えられてきました。およそ5年前、大管長は合衆国南東地域を訪れ、数万人に話を聞いて帰ってきました。そして帰宅した翌朝、多少疲れを覚えていると語りました。が、すぐにこう言いました。「中央アメリカの人々がとても苦しんでいることを知りました。家や畠や多くの人を飲み込んだひどい洪水のためです。わたしは被災地を見舞う必要があると感じています。それで、L・トム・ペリー長老とH・デビッド・バートン監督と一緒に、2日後に飛行機で出かけようと思います。」わたしたちは大管長の得た情報、すなわちすでに送って支給場所に届いている物資と、飛行機や船で輸送中の追加物資に関する情報を検討しました。

ヒンクレー大管長は福音プログラムが役立っていることを喜びながら3日間の旅から戻って来ました。大管長は会員たちと会い、また、宣教師たちと会いました。そして、家屋の



エズラ・タフト・ベンソン大管長(左)は、第二次世界大戦後、妻と家族を置いてドイツやその他の国々に住む被災した教員たちを訪れ、心から与えるという模範を示しました。



**右—およそ5年前、
ゴードン・B・ヒンクレー
大管長は洪水に見舞われた
中央アメリカを訪れて、
人々を励まし、
援助を約束しました。**

ざんがい 残骸を片付けていた人々に称賛の言葉を述べたのです。

ヒンクレー大管長は彼らを励まし、さらなる援助を約束しただけでなく、それ以上に、自分自身をささげたのです。わたしたちは、このような預言者について、天の御父に感謝を述べます。

ヒンクレー大管長との長年の交わ

りにより、わたしは大管長が教会の神聖な基金に関して賢明かつ分別のある管理者であることを知っています。大管長は無駄や浪費が嫌いです。しかしながら、困窮している人々や飢えている人々、虐げられている人々、抑圧されている人々に大管長が背を向けるのを、一度も見たことがありません。人を助けることは神から人に託された務めです。教会は、苦しみが和らげられ、心が励まされ、命が救われるよう、食糧や宿舎、援助を惜しみなく提供しています。

クリスマスの季節を迎える今以上に、わたしたち全員がキリストなるイエスの説かれた原則に自らを再びささげるうえでよい時はありません。心を尽くして主なる神を愛し、また自分自身のように隣人を愛する時です。「金銭を与える人は心の広い人であり、時間を与える人はさらに心の広い人である。しかし、自分自身を与える人はだれよりも心の広い人である」ということを、覚えておきましょう。この言葉が似つかわしいクリスマスの贈り物をしようではありませんか。■

注

1. 3ニーファイ1:13
2. マタイ4:19
3. ヨハネ1:43
4. マタイ9:9
5. 教義と聖約64:34
6. “Make the World Brighter”
Deseret Sunday School Songs
(1909年), 197番
7. 上院, ピーター・マーシャル, 第

- 80回議会, 第1回会議, *Congressional Record*(1947年12月19日) 93, 第9部, 11673
8. 村岡花子訳『クリスマス・カロル』
新潮文庫, 14, 読み仮名付加
9. 『クリスマス・カロル』136, 読み仮名付加
10. イザヤ53:3, 欽定訳から和訳
11. ヨハネ14:27
12. 默示3:20



**右—ハワード・W・ハンター
大管長は、非常に痛ましく
困難な状況にあって苦しんで
いる夫婦に、救いの贈り物、思いやりの贈り物を惜しみなく
与えました。**

ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。次に挙げるのはその一例です。

1. クリスマスの時期に自分自身をささげた例について家族に話してもらう。「主からの招き」の項と一緒に読む。救い主の模範に倣ってこれからの一年を過ごすように家族を励ます。

2. 担当の各家族にあなた自身を贈り物とする。次いで、「心から与える」の項で述べられている、与えることの例について家族に読んでもらう。このメッセージの最後の段落を読み上げ、また救い主が御自身をあなたへの贈り物としてくださったことを証する。



手作りの クリスマス

七十人
ジーン・R・クック

指針を設けることにより、クリスマスの贈り物が、贈る側と受ける側にとってより深い意味を持つものとなりました。

わたしたち家族は、南アフリカに住んでいた4年半の間、アメリカで祝っていたものとはまったく異なるクリスマスを体験しました。

南アフリカのクリスマスは今までに経験してきたのに比べ、質素なものでした。多くの人の経済状況を反映し、クリスマス商戦は控えめでした。

ちょうどクリスマスの時期に南アフリカでの割り当てを終え、わたしたちはアメリカに戻りました。店に行くと、ゲームや腕時計、ステレオ、テレビ、スノーモービル、おしゃべり人形、模型飛行機、ビデオデッキ、電子レンジなど、何百という商品が並んでいました。クリスマスへの力の入れ方が南アフリカとはまったく異なっているので戸惑いました。

やがて、次のような疑問が浮かんできました。「クリスマスとは一体何だろうか。」クリスマス(Christmas)という言葉を分解すると、“Christ(キリスト)”と“mas”になります。“mas”はスペイン語で「もっと」という意味です。ある人にとって、クリスマスは“mas y mas y mas(もっと、

そもそもっと、さらにもっと〔訳注——スペイン語で“y”は英語の“and”的意〕)を意味するようでした。クリスマスという言葉の中の「キリスト」と、真の贈り物である「ささげる」という精神が忘れ去られているように思えました。

クリスマスのほんとうの精神、すなわちイエスの降誕を祝うこと、そして人に与えたり、愛を示したり、関心を寄せたりする精神を持って過ごすことが、少なくともわたしたちから見て、喧騒の中で薄れてしまっているように思えました。プレゼントを買わねばならないという差し迫った気持ちを感じました。それは恐らく、真のささげる精神からというよりは、義務感から來るものでした。

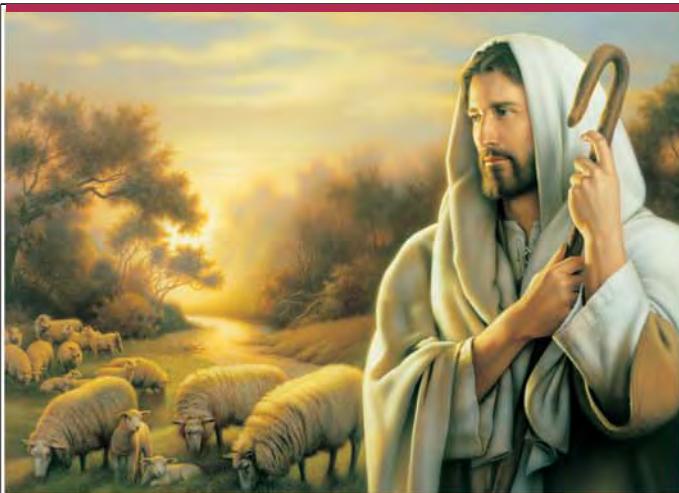
贈り物についての家族の指針

わたしたちは今まで以上にクリスマス(や誕生日)に真のささげる精神を呼び戻すにはどうしたらよいか考えました。そして、次のような指針に従うことにしました。

1. できるかぎり、贈り物は購入しない。
 2. ほとんどの贈り物は自分の手や時間を使って作る。
 3. 贈り物を作る部品といえども、できれば購入せず、手もとにあるもので間に合わせる。
 4. 自分の時間と才能、そして自分自身をささげ、受け取る人の必要を満たすことに集中する。
- これらの指針を設けたことは、わたしたち家族にとってすばらしい経験となりました。このようなルールに従うことによって、受け



**クリスマスに真の
ささげる精神を
呼び戻すには
どうしたらよいでしょうか。
この答えを
見いだしたことは、
わたしたち家族にとって
すばらしい経験
となりました。**



以下に挙げる主の教えは、眞のささげる精神が実在すること、そして最も偉大な贈り物、すなわち最も価値ある贈り物とは、時間と手間をかけ、才能を存分に使った贈り物であることを示しています。最も偉大な贈り物は、自分自身をささげることなのです。

奉仕

「わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。」(ヨハネ10:11, 強調付加)

愛

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。」(ヨハネ3:16, 強調付加)

義にかなった贈り物

「あなたがたも、ぶどう園に行きなさい。何であれ、ふさわしいものを与えよう。」(欽定訳マタイ20:4から和訳、強調付加)

与えること

「惜しみなく受けたのだから、惜しみなく与えるがよい。」(欽定訳マタイ10:8から和訳、強調付加)

「『受けるよりは与える方が、さいわいである』と言われた主イエスの言葉を記憶しているべき……である。」(使徒20:35, 強調付加)

「多く与えられた者からは多く求められ……るのである。」(ルカ12:48, 強調付加)

惜しむ心からではなく、喜んで与える

「各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく、〔施す〕べきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。」(2コリント9:7, 強調付加)

「〔ある〕者はささげ物をしても、惜しみながらするので、ささげ物をしなかったと同じように見なされる。」(モロナイ7:8, 強調付加)

取る人のほんとうの必要や欲求を見極めるために、その人についてよく考え、時には祈るようになりました。誕生日やクリスマスが来る何か月も前から心のこもった贈り物を準備することで、ささげる精神をはぐくむことができます。またこの方法を通して、思っていた以上に手もとにあるもので間に合わせられることを知りました。

息子が8歳のとき、母親に贈り物をするのを手伝ったことがあります。息子は、1枚の板を使って鍵掛け用の板を作ると決めていました。何も購入しないというルールにのっとって、二人で古い板を見つけました。あまり質の良くない木材だったので、紙やすりをかけるのに通常より3倍の時間がかかりました。

色を塗る段階になったとき、塗装用のブラシがないことに気づきました。そこで、わらを使い、古いかごから竹を取って、手製のブラシを作りました。出来栄えがあまりよくないのではないかと懸念しましたが、驚いたことに、竹とわらでも、今まで使ってきたブラシと同じくらいきれいに塗ることができました。

わたしは鍵を掛けるフックを買ってあげたいと思いましたが、息子からそうするわけにはいかないと諭されました。そこで頭の付いていないまっすぐな釘を用いることにしました。たっぷりの愛情と心を込めて、釘を辛抱強くフックの形に曲げていったのです。すると、釘は店で売っているのと同じくらい、美しく湾曲したフックになりました。出来上がった作品は、まさに心を注いで作られた、母親への贈り物でした。

隣人へ贈るギフト券

近所の人や友人には別の種類の贈り物をします。この贈り物を家族ギフト券と呼んでいます。紙に受け取る人の名前を書き、その人が受けられる奉仕を明記します。ギフト券には次のような奉仕があります。

- 車庫前の雪かき、1回無料
- 芝刈り、1回無料
- 車庫掃除、1回無料
- 洗車、1回無料
- うちの子供のピアノリサイタル、1回無料
- パン2個無料(お母さんではなく、子供たちの手製)
- 無料ベビーシッター
- 男手が足りない方のための修理仕事、2時間
- 福音を教えるファイヤサイド、1回無料

こうした個人的な贈り物にも、特別な価値があります。

家族のためのギフト券

家族にも同じようなギフト券を贈ります。

- ベッドメーキング、7回（この券は子供たちが交換していました）
- 受け取る人の好きなときにいつでも皿洗い、3回分
- ピアノ演奏、お父さんの歌つき、1時間
- 山への行楽1回
- 車庫掃除
- お母さんまたはお父さんを独占できる時間、1時間、6回分
- 平安と一致の1時間（お父さんとお母さん用）、6回分
- 毎月1通、1年に計12通の手紙（離れて暮らす母親用）

もし主の御靈と聖文に従って贈り物をするなら（関連記事参照），自分自身をいっそうささげ，受け取る人についてさらに考え，心の底から愛を示すようになるでしょう。また，

相手が喜ぶ贈り物を贈るができるように主の助けを祈り求め，このような方法で贈り物ができたことに深い達成感を味わえることでしょう。

真のささげる精神を実行すると，主にもっと近づくことができます。自分自身をささげることと愛することを教えてくださった主イエス・キリストから，より熱心に学びましょう。クリスマスと真の贈り物，すなわちさらに多くの品物を贈るのではなくキリストの精神を贈ることに焦点を当てましょう。■

“A Christmas Made at Home,” Ensign, 1984年12月号, 56-59を基に編集。

真のささげる精神を実行すると，主にもっと近づくことができます。





あなたが好きな の理由

ルイス・ズーリゲン・ジョーゲンセン

工 リックから
もった
心のこもった
クリスマスプレゼントは、
わたしたち家族にとって
大きな価値がありました。

長 男のエリックは高校生のときに、家族にクリスマスの贈り物をしたいと思いました。お金はわずかしかなかつたので、その分、心のこもった贈り物をすることにしました。

エリックは、家族一人一人にリストを作りました。自分がこれから大学や伝道に行っている間、家族から離れていて恋しくなるであろう事柄を、一人に10項目ずつ書き出したのです。そして出来上がったリストを筒状に丸めるとリボンで結びました。

クリスマスになり、わたしたちは好奇心にわくわくしながら、それぞれに贈られたリストを開きました。わたしのリストには、「お母さんがコンピューターを何とか使いこなそうとすることを見ること」「抱き締めてくれること」などが書かれていました。一人一人に10項目ずつ考えるには、さぞ時間がかかったことでしょう。わたしは涙を流し、弟たちは笑い転げました。そしてたった一人の妹は、贈られたリストを大切に心に刻みました。3年たった今も、妹の部屋のドアにはそのリストがかかっています。

現在、長男はゲアテマラで宣教師として働いています。そこで今度はわたしたちが、エリックが帰還する前の最後のクリスマスに特別

な贈り物をしたいと考えました。エリックが3年前に贈ってくれたプレゼントに倣って、それぞれがリストを書いたのです。そしてそのリストを「エリックが伝道中、特に恋しかった10の事柄」と名付けました。

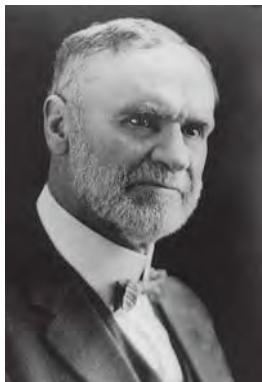
難しい作業ではありませんでしたが、弟たちはさんざん頭を悩ませた末にやっと書き終えました。それは家庭の夕べのすばらしい活動になりました。10項目を考えながら、皆で笑ったり、泣いたりしました。何とすてきな家族の伝統が始まったことでしょう。ほかの子供たちが大学や伝道のために家を離れても、ずっとこの伝統を続けていきたいと思っています。

特別なものを贈るために、息子が忙しい合間を縫って、知恵を絞ってくれた贈り物を決して忘れる事はないでしょう。エリックからこの特別な贈り物を受け取れたことを、家族みんな心から感謝しています。■

ルイス・ズーリゲン・ジョーゲンセンはオレゴン州メドフォードステーク、アシュランド第2ワードの会員です。







オーソン・F・
ホイットニーは
1855年7月1日、
ユタ州ソルトレーク・
シティーで生まれた。
ホイットニー長老は
1906年4月9日、
ジョセフ・F・スミス
大管長によって
十二使徒定員会に
聖任された。そして
1931年5月16日
ソルトレーク・シティー
において75歳で
死去した。
これは1925年
6月7日に開かれた
MIA(相互発達協会)
50年祭記念大会の
日曜の夜の部会で
語られた話から
抜粋したものである。

イエス・キリスト の神性

十二使徒定員会
オーソン・F・ホイットニー
(1855-1931年)

世の贍い主が神としての特質を持ち、聖なる使命を果たされたことを、キリスト教徒を自認する人々でさえ疑うこの時代にあって、「地上に信仰が見られる」ことは祝福であり、喜ばしいことです〔ルカ18:8〕。信仰とはすなわち、イエス・キリストは紛れもなく神の御子であり、おとめからお生まれになった人類の救い主であり、また油注がれ、予任された神の使者であられると信じることができます。この神は「そのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さ〔り〕……御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得る」ことができるようにしてくださいました〔ヨハネ3:16〕。

とりわけ末日聖徒はこのことについて搖るぎない確信を抱いています。……そして今晚、この集いには、シオンの若い男性・女性のスローガンである「わたしたちはイエス・キリストの神性という特別な証を擁護します」という言葉の入った旗が掲げられています。

証はどのようにしてたらされるのか

この証を得る方法は一つしかありません。それは人の方法ではなく、神の方法です。この証を書物から得ることはできませんし、学校から授与されることも不可能です。人間にはこの証を授ける力がないのです。この証を授かるとしたら、神の賜物として、高い所から降る直接の啓示によって授かるしかありません。

イエスは使徒の頭であるペテロに言われました。「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか。」ペテロが答えて言いました。「あなたこそ、生ける神の子キリストです。」すると、イエスはペテロに言われました。「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。」〔マタイ16:15-17〕

これがペテロの証の基盤です。このような正真正銘の証には、すべて同じ基盤があります。すべて、共通の土台の上に築かれています。

証とは証拠のことです。証を形作るものは様々です。福音の様々な賜物の実が証を構成します。夢、示現、預言、異言とその解釈、癒しなど、神の御靈の現れすべてが、証の構成要素です。

最も確かな証拠

しかしながら、あらゆる証の中で最も偉大で説得力のある証は、聖靈すなわち慰め主が「燃え立たせ、啓発する力」で心を照らしてくださいときに得られます。救い主は弟子たちに、御自分が世を去った後に慰め主を送ると約束されました。この慰め主とは、過去のことを思い起こさせ、来るべきことを示し、過去、現在、未来を通じて神にかかわることを示してくださいる御方です。

最も大いなる神の賜物

この御靈によって、まさにこの御靈によってのみ、神を知り、神が遣わされたイエス・キリストを知ることができます。神と御子を知り、その知識に矛盾しない行動を取ること、そ



イエスは立ち上がる
と、使徒たちが
ひざまずいている所
へ行かれました。
彼らは待っている
わずかな間に
眠り込んでいました。
イエスは彼らを
優しく揺り動かして、
目覚めさせると、
穏やかに叱責する
様子で、一時も一緒に
目を覚ましていること
ができないのかと
尋ねられました。

れは、永遠の命を獲得するのに等しいことなのです。天のあらゆる賜物のうち最も大いなるこの賜物を得る方法を知ること——死すべき人間として得られる知識としてこれ以上のものはありません。

神を知るためにには、まず自分自身について知らなければなりません。自分はどこから来て、なぜこの世にいるのか、この世に遣わしてくださった御方から何を期待されていて、世を去った後にどこへ行くのか、そして大いなる来世では何が待ち受けているのか。これらの疑問に対する答えを知らなければならぬのです。これらの問い合わせへの答えとなる知識——人類が持ち得る最も貴い知識——を泉のごとく豊かに与えてくださるのが、聖なる御靈です。この聖なる御靈によってのみ、イエス・キリストがかつて神であり、現在も神であられるという証が得られるのです。……

有史以来受け継がれてきた証

「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる。」[ヨブ19:25] 義にかなったヨブが苦しみのうちにありながらも、喜びに満たされて叫んだ言葉です。極限まで試され、苦しみに耐え抜いたヨブが心の底から発したこの証は、1万人の心に響いています。いいえ、1万を1万倍するほど大勢の忠実な義人の胸に共鳴しているのです。天から靈感された証は、アダムの時代からジョセフ・スミスの時代に至るまで、すべての時代を通じて響き続けました。キリストは神であられるという証は、聖典の随所に記されており、様々な奇跡と不思議によって裏付けられています。

神として生き、神として死くなられた

たとえキリストが何一つ奇跡を行われなかつたとしても——水の上を歩きも、病人を癒しもせず、悪霊を追い出しても、見えない人を見るようにもせず、足の不自由な人を歩けるようにもせず、不思議なことを何一つなさらなかつたとしても——、その生涯には御自身の神性に関する紛れもない証が至る所に見受けられないでしょうか。

「よい働きをしながら、……巡回され」[使徒10:38]、敵を愛し、迫害する者のために祈り、人からしてほしいことを人にもするよう教えられた御方の生涯以上に、神聖な生涯があるでしょうか。十字架で死の苦しみを受け、まさに御自分を殺そうとしている者にも天の赦しを願われた御方は、神としての寛大さを示されたのではなかつたでしょうか。「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにはいるのです。」[ルカ23:34]

これよりも神々しい出来事があるでしょうか。あの瞬間にあのように祈ることのできる人が、神以外にいらっしゃるでしょうか。「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」[ヨハネ15:13]しかし、この御方は友だけでなく敵のためにも命をお捨てになったのです。人間にはとうていまねできることではありません。敵も友も分け隔てなく、あらゆる人のために命を捨てができるのは、神だけでした。この行為一つを考えてみても、イエス・キリストが神としての特質を持っておられ、神としての使命を帶びておられたのが分かります。

神を知っていた人々

十二使徒はキリストの特別な証人でした。このため、キリストが自ら言われたような御方であることについて、一点の疑いもなく知る必要がありました。このような責任を負った人はかつて地上にいませんでした。彼らの責任は主の復活を証するというものです。しかし、キリストが墓から出て来られるまで、この惑星に復活という出来事はまったくありませんでした。しかし、キリストは「眠っている者の初穂」であられ[1コ林15:20]、十二使徒はそれを単に信じるだけでなく、知らなければならないのです。使徒である以上、世に出て行き「わたしたちはイエスが死人の中からよみがえられたと信じています。それがわたしたちの見解であり、信念なのです」と言って済ませるわけにはいきませんでした。そのように述べていたとしたら、当時の罪深い人々にどのような印象を与えたでしょうか。当時の使徒たちにとって、ただ信じているというのは不十分でした。使徒として、知っている必要がありました。そして事実、知っていたのです。実際に主を見て、主の声を聞いていました。主に触れることさえ許されていたのです。使徒たちは、そのようにして、主がまことによみがえりであり、命であられるごと心得心しました。使徒としての独特な使命のゆえに、このような知識を持つ権利を有していました。他方、世のほとんどの人は、使徒が述べるキリストへの証を信じることが必要でした。……

信念と知識

しるしを求めるのは忌まわしいことであり、しるしを求める人は自ら不義な者であることを証明しています。見ないで信じることは幸いなことです。なぜなら、信仰行使すれば靈的な成長が得られるからです。靈的成長は地上で生活する最大の目的の一つです。これに対して、信仰を軽視して知



この御方は友だけでなく敵のため
にも命をお捨てになったのです。
人間にはとうていまねできること
ではありません。

識を優先させていると、信仰行使する機会を失い、靈的な成長が妨げられることになります。「知識は力なり」という言葉がありますし、確かにあらゆることは時が来れば明らかになります。けれどもふさわしい時が来る前に知識を得てしまうと、そのようにして得た未熟な知識は、進歩と幸福の両方にとって取り返しのつかない結果を招くのです。

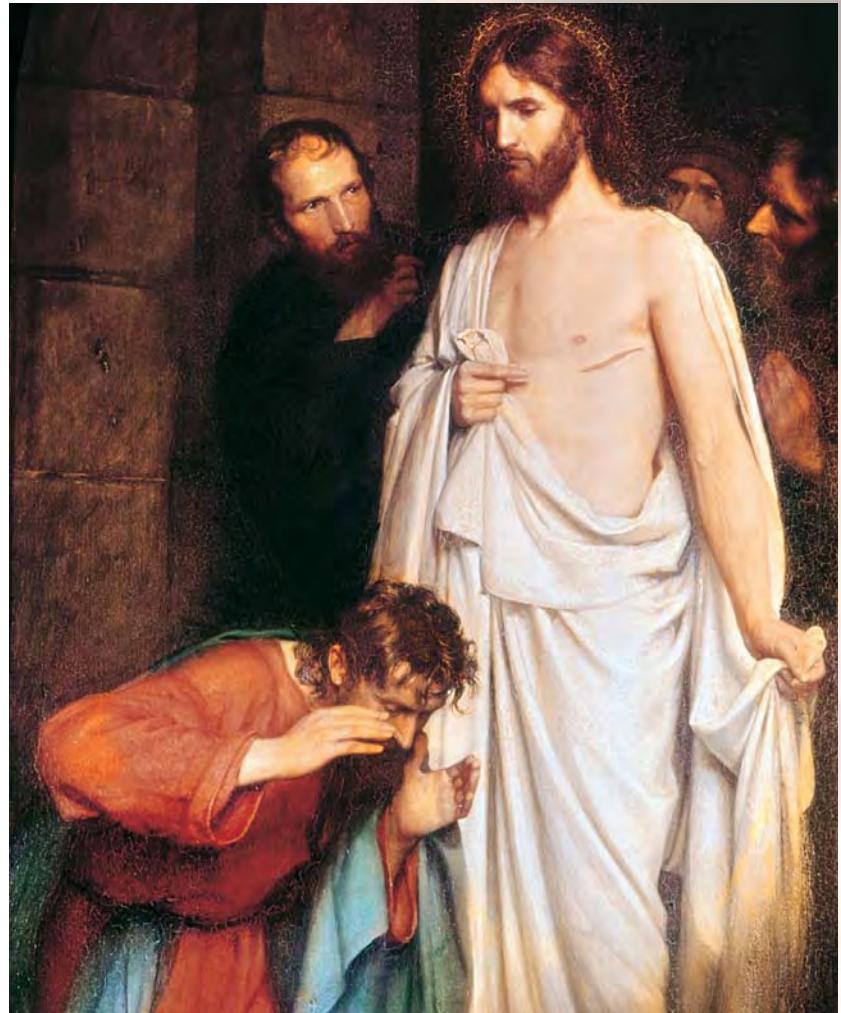
使徒たちは例外でした。彼らは特別な立場にいました。知っている方がよかったですよりも、絶対に知る必要があったのです。それは、彼らが述べる途方もない証に大いなる力を添えるものでした。

上から授けられる力

とはいっても、幾ら十二使徒であっても、キリストの神性を知り、証するには、目や耳で確認したり手で触れたりするだけでは不十分でした。ペテロは、復活という出来事の前に、イエスがキリストであり、生ける神の御子であられることを知っていましたが、それは神の啓示によって示されたからなのです。十二使徒の兄弟たちは皆、同じ方法によって同じ知識を得る権利を授けられていました。

使徒が主の業に携わるために、復活された主の御姿を見るだけでは不十分でした。その事実は、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝え〔る〕」責任を受けた使徒たちが〔マルコ16:15〕、同時に「上から力を授けられるまで」エルサレムにとどまっているように言わしたことからも明らかです〔ルカ24:49〕。使徒たちはこの命令に従って待っていました。そして力が注がれたのです。「激しい風が吹いてきたような音が天から起つてきて、……また、舌のようなものが、炎のように分れて現れ、ひとりひとりの上にとどました。すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した。」(使徒2:2-4)

使徒たちは、この同じ力を人にも授けました。イエス・キリストを信じる信仰を持ち、罪を悔い改め、神の権能を持つ者の手によってバプテスマを受け清められたすべての人に、同じ力を授けたのです。このようにして人々も聖霊を受けられるようになり、また従順であるならば永遠の命を受けられるようになりました。



末日の証

古代のことはこれくらいにして、現代についてお話ししましょう。ジョセフ・スミスは19世紀の初頭に御父と御子の訪れを受けました。ジョセフを通して永遠の福音が、古代にあった賜物や祝福とともにすべて回復され、最後にして最も大いなる福音の神権時代の幕が開いたのです。ジョセフ・スミスはシドニー・リグドンとともに、神の御子が神の右に座っておられるのを目にし、また永遠の栄光を目の当たりにします。ジョセフ・スミスはオリバー・カウドリとともに、カートランド神殿で教壇の手すりの上に立っておられるエホバすなわちイエス・キリストを見ます。預言者ジョセフ・スミスは、この業の基を置くために殉教者として自らの命をささげました。そしてこのジョセフ・スミスは、イエス・キリストの神性について幾つもの力強い証を残しています。何万もの忠実な末日聖徒が、ジョセフの証に喜びを見いだしていく、今

十二使徒はキリストの特別な証人でした。このため、キリストが自ら言われたような御方であることにについて、一点の疑いもなく知る必要がありました。彼らは使徒として、知っている必要がありました。そして事実、知っていたのです。実際に主を見て、主の声を聞いていました。主に触れることさえ許されていたのです。使徒たちは、そのようにして、主がまことによみがえりであり、命であられることを得心しました。

も同じ喜びをかみしめているのです。皆、揺るぎない確信を与える聖霊の力によって、ヨセフの証が確かなものであることを知っています。

伝道地において

この非常に大切なテーマについて、多数の証拠が示されました。それに加えて、わたし自身のささやかな経験を紹介したいと思います。50年前、あるいは50年に少し満たないかもしれません、わたしは若いころペンシルベニア州で伝道しました。真理についての証を祈り求めてはいましたが、伝道活動にはそれ以上の熱意を示していました。経験豊かな同僚は、伝道への熱意に欠けているわたしをとがめて言いました。「もっと教会の書物を研究しなさい。あなたは福音を宣べ伝えるために召されているのであって、新聞記事を書くためではないのですから。」そう言うのはもっともなことでした。わたしは当時、伝道中でありながら、記事を執筆していたのですから。

同僚の言うとおりだとは分かっていましたが、記事を書くのはやめませんでした。文才に恵まれていることに気づき、そのことに心を奪われていたのです。幼いころに夢見た〔演劇〕を別にすれば、物書きの仕事以外にはまったく関心がありました。21歳のときに演劇の夢は祭壇にささげ、伝道の召しを受けたのです。

ゲツセマネにおいて

ある晩、それを夢と呼んでよいかどうか分かりませんが、わたしは夢を見ました。夢の中でわたしはゲツセマネの園にいて、救い主の苦しみを見ていました。今、ここに集っている人々を見るようにはっきりと救い主を見ました。すぐそばの木の陰に立っていたわたしは、だれの目にも触れることなくその様子を見ることができました。右手の小さな門からイエスがペテロ、ヤコブ、ヨハネを伴って入って来られました。イエスは3人の使徒をそこへ残し、ひざまずいて祈るようにおっしゃると、反対側に歩いて行き、ひざまずいて祈られました。それはわたしたちが皆よく知っている祈りでした。「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい。」(マタイ26:36-44;マルコ14:32-41;ルカ22:42[参照])

祈っている間にイエスは涙を流されました。その涙は顔を伝ってわたしの方へ流れて来ました。その光景にひどく心を打たれて、イエスの深い悲しみに純粋に同情し、わたしも泣きました。わたしの胸は主への思いでいっぱいでした。心からイエスを愛し、イエスと一緒にいられるなら、ほかに何も要らないと思いました。

それからイエスは立ち上がり、使徒たちがひざまずいて

いる所へ行かれました。彼らは待っているわずかな間に眠り込んでいました。イエスは彼らを優しく揺り動かして目覚めさせると、いささかの怒りも非難の感情もなく、穏やかに叱責する様子で、一時も一緒に目を覚ましてはいることができないのかと尋ねられました。イエスはそのとき、世の罪を御自分の双肩に担っておられました。あらゆる男女、子供の苦痛によってその感受性豊かな心が刺し貫かれていました。それでも使徒たちはわずか一時でさえも、イエスとともに目を覚ましてはいることができなかったのです。

イエスは先ほどの場所に戻って祈り、再び使徒たちのもとへ来られると、彼らはまたもや眠っていました。再び彼らを起こし、いさめると、また戻って祈られました。このことが3度繰り返される間、わたしはイエスの容貌を、その顔や姿、動作を目に焼きつけることができました。イエスは気品のある、堂々とした御方でした。一部の画家が描いているような弱々しく、意気地のない人ではありませんでした。紛れもなく神であり、なおかつ幼子の^{おさなこ}ような柔軟さと謙遜さを備えた御方でした。

突然、何かが変わったようでした。場面は以前と同じでした。しかし先ほどとは異なり、すでに十字架の刑の後であり、救い主は3人の使徒とともに左手に立っておられました。まさに出立して、天に昇ろうとしておられるところでした。わたしはもう耐えられなくなり、木の陰から飛び出して、主の足もとにひれ伏し、主のひざの辺りに取りすがって、一緒に連れて行ってくださるようお願いしました。

身をかがめてわたしを起こし、抱き締めてくださったあのときの主の思いやりあふれる優しい仕草を忘れることができません。その夢は非常に鮮明であり、夢なのか現実なのか区別がつかないほどで、主に寄りかかったわたしは主の胸の温かさを感じました。そうして主は言われました。「いいえ、息子よ。これらの者は自分の務めを終えたので、わたしと一緒に行くことができます。しかしあなたはここに残って務めを果たさなければなりません。」わたしはなおも主にしがみついて、主の顔をまばたきもせずに見上げていました——というのは主がわたしよりも背が高かったからです。わたしは必死で願い求めました。「では、この世を去るときには、あなたのみもとへ行けると約束してください。」すると主は優しくほほえみながら、答えられました。「それはまったくあなた次第ですよ。」目を覚ますと、わたしはむせび泣いていました。すでに朝でした。

物語の持つ教訓

この出来事を同僚(A・M・ミューザー長老)に話すと、彼は「それは神から与えられたものですよ」と言いました。「もちろんわたしもそう思います」と答えました。わたしはその教訓をはっきりと理解していました。自分が使徒になるとか、



「昇天」
ハリー・アンダーソン画

そのほか教会の役職に召されるなどと考えたことはありませんでしたし、その夢を見たときでさえそのようなことは思いつきもしませんでした。けれども、わたしは夢の中で眠っていた使徒たちがどのような意味を持っているかは理解できました。わたしは宣教師として眠っていました。神から何らかの召しを与えられていながら、ほかのことをしている男女は皆、眠っているのです。

ヤング大管長の助言

しかしそのときからすべてが変わりました。わたしは別人のようになりました。執筆活動をやめたわけではありません。というのは、地元ユタ州の新聞に寄稿した記事を目にしたブリガム・ヤング大管長〔1801-1877年〕が、手紙で助言を送ってくれたからです。わたしには「執筆の賜物」があると言ってくれ、将来「地上に真理と義を確立するときに」役立つようにその能力を高めるように勧めてくれました。これがヤング大管長から受けた最後の助言となりました。ヤング大管長はその年、わたしがオハイオ州で伝道している間に亡くなりました。わたしは執筆を続けましたが、それは教会と神の王国のためでした。わたしはそのことを最も大

切にしました。ほかのことは二の次でした。

話者の証

その後に神から特別な啓示が与えられました。それは夢、示現、そのほかの現れをすべて合わせたよりもはるかに偉大なものです。神のろうそくの光、つまり聖霊の賜物によって、それまでに見たことのないものを見、知らなかつたことを知って、かつてないほど主を愛するようになりました。全身全霊が満たされ、喜びにあふれました。真理の証を得たからです。そしてそれは、今日に至るまでわたしのもととどまっています。

わたしはわたしの贖い主が生きておられる事を知っています。ヨブもかなわないほどにそのことを知っています。わたしには疑いを差し挟むことのできない証拠があります。だからこそ、今晚このスローガンの下に集まっている人々——イエス・キリストの神性という特別な証を持ち、それを宣言する人々——の中にいるのです。■

Improvement Era, 1926年1月号, 219-227に掲載。
句読点、つづりは現代風に変更されています。

あかし
あらゆる証の中で
最も偉大で
説得力のある証は、
聖霊すなわち慰め主が
「燃え立たせ、啓発する
力」で心を照らして
くださるとときに
得られます。
救い主は弟子たちに、
御自分が世を去った後
に慰め主を送ると
約束されました。

あふれる
恵み



教会員が語る什分の一の証と祝福

毎年、わたしたちは什分の一の年末面接を受け、監督または支部長と個人的に什分の一の納付状況について振り返る機会があります。この機会を通じて、正直に什分の一を納める決心をして新しい第一歩を踏み出すことができるのです。

主はこうお命じになりました。「……10分の1全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさい……。」(マラキ3:10) 什分の一を納めるとき、大きく開かれた天の窓から、どのような靈的および物質的な祝福が注がれるのでしょうか。世界中の教会員が証と経験を紹介してくれました。

戻るよう導かれ

4年近く前のことです。20年間忠実に教会に集ってきた父と暮らすことになりました。それまで教会に行っていなかつたわたしは、福音についてほとんど知りませんでした。

わたしは少しずつ教会に足を向けるようになりました。そしてステーク大会の日曜日に、地域幹部七十人のアデルソン・デ・ポーラ・パレラ長老から什分の一についての話を聞きました。什分の一の律法についてはあまり理解していませんでしたが、自信と信仰と御靈に満ちたパレーラ長老の話を聞き、これからは什分の一を納めようと決心しました。

そして、什分の一と献金を納めるようになると、生活に驚くような変化が起こりました。心は御靈で満たされ、放蕩息子のように真の福音の道に戻るよう導かれたのです。それどころか、主からさらに大いなる祝福を受け、ブラジル・フォルタレザ伝道部の宣教師として奉仕することができたのです。

什分の一を忠実に、そして献金を惜しみなく納めると、主は物質的にも靈的にも祝福してくださるということを知っています。

ブラジル・サンタマリアステーク、パラケピンエイロワード、ラファエル・バルセロス・マチャド

主はわたしたちが什分の一を納めれば、
「天の窓を開いて……恵みを……注ぐ」と
約束されました。

主を信頼する

バプテスマを受けてから2か月後、わたしは姉妹宣教師にまだ什分の一を納めていないことを打ち明けました。失業中で、月末までやり繕りするのに十分なお金を持ち合わせていなかったのです。姉妹たちは、主が天の窓を開いてくださるという約束を聖典から読んでくれました。すると聖霊が「主を信頼しなさい」と証してくださいとのを感じました。

翌日、持っていた小額のお金に対する什分の一を納めると、幸せな気持ちになりました。そして翌週には仕事を見つけたのです。主イエス・キリストを信頼するならば、主は奇跡を起こしてくださるということを知り、とてもうれしく思っています。

ブルガリア・ソフィア地方部、ソフィアツェントラレン支部、イワンカ・イワノワ

身に余るほど

わたしは家族の中で唯一の教会員です。そのため、専任宣教師になるには数々の障害を乗り越えなくてはなりませんでした。その一つが財政面での問題でした。十分な伝道資金を得られるよう、何日も仕事を探しました。そしてついに留守宅の管理をする仕事を見つけました。収入は少なかつたものの、何とか什分の一を納めることができました。その後、3人の子供に英語を教える仕事も見つけました。収入は2倍以上に増え、両方の仕事を掛け持ちすることもできました。何という祝福でしょうか。何か月間か働き、その間必ず什分の一を納め、ついにカンボジア・プノンペン伝道部に召されました。

時折、主を雇い主、自分自身をその僕と考えてみことがあります。もしわたしが寝て、食べて、自分の楽しみを追求するだけの怠惰な僕だとしたら、主は報いを与えてくださるでしょうか。いいえ、与えてくださらないでしょう。しかしもし熱心に働けば、主はわたしに報いを与えるのを差し控えられるということがあるのでしょうか。いいえ、主は身に余るほどの報いを与えてくださるのです。もし什分の一の律法に従順であろうとするならば、どれほど豊かな祝福が与えられるのでしょうか。主はあふれんばかりの恵みを与えると言われました(マラキ3:10;3ニーファイ24:10参照)。これは什分の一を納める人すべてに対する主のすばらしい約束です。

カンボジア・プノンペン南地方部、タクマウ支部、エン・ブン・フーク

信仰を試す

台湾で教会に入ったころ、10代のわたしにとって什分の一



母は入院し、
集中治療室に
入らなければ
ならなくなりました。
母のことが
ひどく心配でした。
また治療費を
どう捻出したらよいか
分かりませんでした。
次の日曜日、わたしは
その月の什分の一を
まだ納めていないことに
気づきました。

を納めることは別に難しいことではありませんでした。収入がないに等しかったからです。しかし卒業後仕事に就くと、少し難しくなりました。買う物はたくさんあり、お金は少ししかありませんでした。それでも毎年の什分の一の年末面接では、什分の一を完全に納めてきたことを支部長に正直に報告することができました。

ところが去年、母が入院して集中治療室に入らなければならなくなりました。母のことがひどく心配でした。また治療費をどう捻出したらよいか分かりませんでした。次の日曜日、わたしはその月の什分の一をまだ納めていないことに気づきました。けれども、お金はすべて病院の支払いに回さなければならぬだろうと考え、什分の一を納めるのを翌週まで引き延ばすこととしたのです。日曜日が再び巡ってきたときに、わたしは什分の一を納めると天の窓が開かれるという主の約束を細い声によって思い出すことができました。そして「今こそ

信仰を試す時だ」と
思いました。

銀行からお金を引き出し、什分の一の封筒に入れました。少し躊躇しましたが、勇気を奮い立たせ、封筒を支部長に渡しました。封筒を手放すのをためらったものの、このことについては神の手にゆだねよう決心しました。

ちょうど1週間後、保険会社から電話があり、小切手が送られてくることを知りました。金額を尋ねると、わたしが納めた什分の一の何倍もの額でした。もし忠実であれば、神は決してわたしたちをお見捨てにはならないのです。

ブリガム・ヤング大学第6ステーク, BYU中国人ワード, ルチア
Lia

平安という祝福

2001年にバプテスマを受けたときから、毎月什分の一を納めるようになりました。ところが、バプテスマからほんの8か月後に夫が亡くなり、わたしは家にいる幼い二人の子供と伝道に出ている息子を独りで抱えるようになったのです。確かに財政上の問題は深刻でしたが、什分の一を納め続けました。祝福されて仕事の量がだんだん増えていき、そのために収入も増えました。しかし、それより大切なのは、什分の一を納めていたので主にあって常に平安を感じられたということです。

今では小さな我が家が広く、居心地よく思えます。幼い二人の子供のことは何も心配ていません。わたしは決して什分の一を納めることをやめないでしょう。なぜなら主は肉体と靈の健康を祝福してくださっただけでなく、知恵と平安という祝福も与えてくださったからです。

ブラジル・リベイランビレスステーク, リオグランデ・ダ・セラワード, ジョセファ・マルガリーダ・ドス・サントス・フォンテス

什分の一を納めずに生活することはできません

妻のジーンとわたしは、1957年10月27日にバプテスマを受けました。直ちに什分の一を納め始めるべきでしたが、実際はそうしませんでした。借金が多すぎて、お金が足りないと思

っていたのです。什分の一を納めずには生活ができないことに気づくべきでした。

1年がたち、3番目の子供が生まれようとしていました。新しい家を買い、借金も増えていました。そんな矢先に妻がこう言いました。「什分の一を納めるべきよ。」どうすれば什分の一を納められるのか分かりませんでした。支払いを済ませると、お金はほとんど残っていなかったからです。それでも「什分の一を納めよう」と妻に言いました。そして実行に移しました。

わたしたちは新しい家に引っ越していましたが、ローンはまだ始まっていませんでした。歩道や車道がまだ完成していなかったのです。しばらくすると何日も雨が降り、工事はさらに遅れました。そして、ローンの設定がなされなかったため、返済を始める必要がありませんでした。

工事がようやく完了すると、今度はローン保証会社が関連書類を紛失したのです。しかも急いで探す様子はありませんでした。やっと書類が見つかったときには、引っ越してから6、7か月がたっていましたが、わたしたちはまだ一度もローンを支払っていませんでした。その間にほかの借金を繰り上げて返済することができたのです。

経済的にいつも楽だったわけではありませんが、什分の一を納めるのをやめたことはありません。わたしたちはこの経験を天からの祝福であると思っています。

テキサス州オデッサステーク、ミッドランド第2ワード、ヘンリー・ハードソック

幸福と安定した生活

ロシアのウランウデで教会について学んでいたときのことです。当時わたしは20歳で、兄と一緒に音楽コンクールで歌を歌いました。そのとき、自分たちの歌が審査員の心の琴線に触れるよう祈りました。祈りはこたえられました。歌っているときに二人の審査員が感動して涙を流していたのです。2位になり、賞金を手にしたときは感激しました。

賞金を兄と分けた後で、わたしは什分の一

について学んだことを思い出しました。主の10パーセントを支部長に納めるという教えです。財政的な困難を抱えていた家族は、わたしが神に什分の一を納めることに反対しました。

しかし支部の会員から、お金を什分の一の封筒に入れて納める方法を教わりました。そして最初の什分の一を支部長に渡したときはうれしく思いました。食費がないために家族が餓死するようなことを、天の御父はお許しにならないと信じたのです。

その晩、母の友人が家に来ました。その人

兄 とわたしが音楽コンクールで賞金を獲得したとき、わたしは自分の取り分に対する什分の一を納めるべきだと分かっていました。財政的な困難を抱えていた家族は、わたしが神に什分の一を納めることを反対しました。



あ る婦人から
リンゴを1袋
頂くと、
近所の男の子が
「1個もらってもいい？」
と聞きました。
主は、わたしと家族に
多くの祝福を
下さいました。
その祝福を、わたしが
周りの人に分かち合うか
どうか試されたのです。

は援助を申し出してくれて、わたしが納めた金額以上のお金を置いて行ってくれました。この経験は教訓となりました。わたしはそれから6週間後にバプテスマを受け、今は専任宣教師として働いています。

幸福と安定した生活は、什分の一をいかに正直に納めるかに影響されます。今では家族もわたしと同意見です。

ロシア・サマラ伝道部、マリタ・イワノワ姉妹

祝福を分かち合う

子供たちがまだ小さかったころ、食費をどう捻出したらいよのか分かりませんでした。そ

こで、什分の一を納めて主の約束を試みようと決心しました。わたしは自分たちの悲惨な状況をだれにも話してはいませんでした。

すると驚いたことに、すぐに両親がやって来て、肉やジャガイモ、パンを届けてくれました。それは長期間食べるのに十分な量でした。それだけではありません。長女が学校の体験学習でサンドイッチ店に割り当てられ、週末に家族の分までサンドイッチを持ち帰ってもよいということになったのです。

「あと足りないものは果物だけだわ。」わたしは心の中でそう思いました。その午後自転車で帰宅する途中、袋にリンゴを詰める女性の姿が見えました。そして「少し持って行きませんか」と言われたのです。驚きながら、ぜひそうさせてほしいと答えました。

その後、近所の男の子が我が家に立ち寄りました。おいしそうなリンゴを見ると「1個もらってもいい？」と聞きました。わたしが袋を差し出すと、リンゴを1個取り出しました。お礼を言って立ち去った男の子の目はうれしそうに輝いていました。

後になって思ったことですが、主はきっとわたしをお試しになりましたからでしょう。主は、わたしと家族に多くの祝福を下さいました。その祝福を、わたしが周りの人に分かち合うかどうか試されたのです。わたしはそうしました。そしてそれ以来、祝福を分かち合うよう努力しています。

デンマーク・オルフスステーク、フレデリシアワード、イエット・クリスチャンセン

什分の一を第一に

高校を卒業したわたしは大学で秘書の仕事を得て、家族を養う父の手助けができるようになりました。それまでは父が家族で唯一の働き手だったので、学校に通う子供4人を養うのは大変なことでした。必需品すらなしで済ませるしかないこともあります。

わたしが18歳のとき、父が突然亡くなりました。母は病気のために働きに出ることができ





ませんでした。そのため長女のわたし
が家族を養うことになったのです。

ある日、支出を賄うのに十分な収入を
得ていないことにいらだちを感じていま
した。そのとき、マラキ書の約束を思
い出しました。わたしは天の御父に祈り、
たとえ食費が足りないときでも、什分の
一を完全に納めてきたことを認めてく
ださるように訴えました。その日の午後、監
督が食べ物を携え、助けに来てくれま
した。わたしが家族を養っている間、主が
助けてくださらなかったことは一度もあ
りませんでした。

弟が伝道に出る年齢に達したとき、弟
は、家に残って家計を助けるために働き
たいと言いました。しかし、わたしたち
は弟が伝道に出るべきだと感じました。
弟は仕事を辞め、伝道に出ました。翌月、
わたしの給料が上がりました。弟の伝道
中、わたしたちは決して不自由な思いをしま
せんでした。わたしは奨学金を得て、製品デザイ
ナーになる勉強をすることができました。その
間、みんなの靴はいつもより長持ちし、服がい
つものようにすぐに古びることもなく、病気にな
る回数も減りました。

家族を6年間養った後、わたしはすばらしい
男性とエクアドル・グアヤキル神殿で結婚しま
した。わたしたちは、いつも什分の一を納める
ことを目標とし、そのようにしてきました。毎月
什分の一を最初に取り分けました。すべてそ
ろっていたわけではありませんでしたが、生活
に困ることもありませんでした。

結婚して2年後、夫が交通事故で亡くなりました。わたしは再び家族を養うことになりました。けれどもよい仕事がありますし、什分の一の律法に従って生活するならば、幼い息子とわ
たしは必要なものを得られることを知っています。主はわたしを決して見捨てることはなく、引き続き祝福を注いでくださると心から知っています。主は物質的な祝福だけでなく、靈的な
祝福も与えてくださるのです。■

エクアドル・クエンカステーク、モネイ支部、カリナ・バネガス・
バルシア

家 族を6年間養つ
た後、わたしは
すばらしい男性
とエクアドル・グアヤキル
神殿で結婚しました。
わたしたちは、いつも
什分の一を納めること
を目標としました。
すべてそろっていたわけ
ではありませんでしたが、
生活に困ることも
ありませんでした。

比べようのない喜び

エマ・ウィザーズ

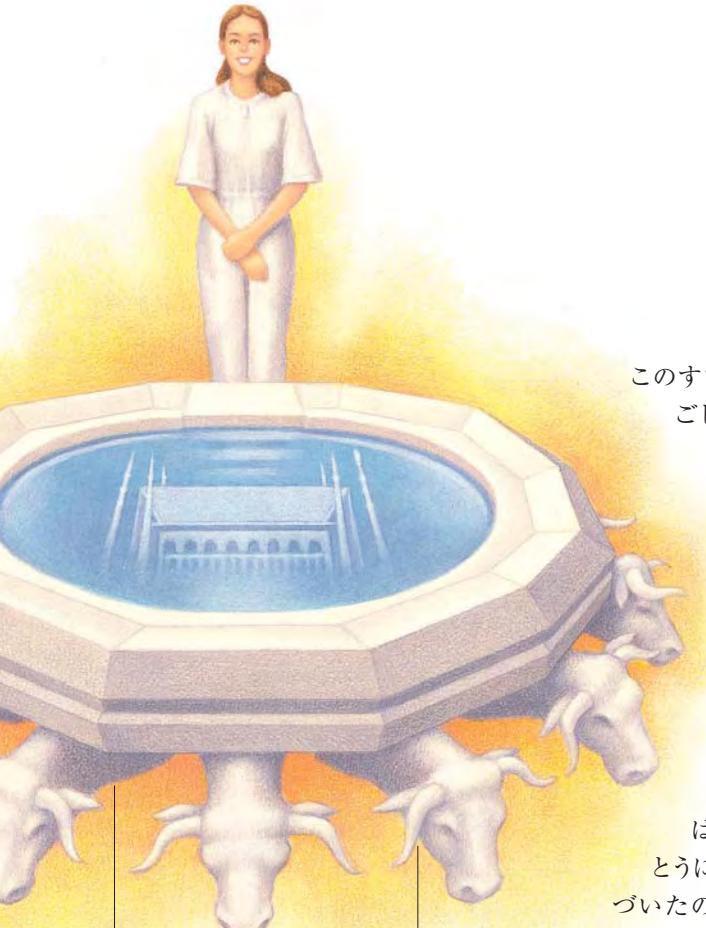
この世のどんな楽しみも、
神殿で得る平安や
喜びとは比べようが
ありません。

最 近、
故郷
南アフ
リカの北方にある
野生動物保護区に
家族で出かけたとき
のことです。ヨハネスバ
ーグに2、3日泊まって神殿に行
くことにしました。

ヨハネスバーグのホテルは最高でした。まるで映画に出てくるようなホテルだったので。寝室は、我が家の中と居間を合わせたよりも広く、浴室には床暖房が入っていて、テレビはボタンを押すとケースから出てくる仕掛けになっていました。従業員はどんな気まぐれな注文にも応じてくれました。

感激しました。遊び回り、王族のように振る舞いながら「人生はこうでなくちゃ!」と思いました。そしてホテルのぜいたくな雰囲気に有頂天になったわたしは、そもそも何のためにここまで来たのかをすっかり忘れてしまいました。

わたしたちきょうだい3人が、神殿に入って死者のためのバプテスマを受けられるのは土曜日の午前中だけでした。でもわたしは、神殿については考えもせず、土曜日はゆっくり寝て、



神 殿の美しさと、
バプテスマを
受けているときに
抱いた気持ちは、どんな
犠牲をも払う価値のある
ものでした。

このすてきなホテルで一日過ごしてから家へ帰れたらどんなにいいだろうかとばかり考えていました。

それでもやはり、神殿には行くことにしました。神殿の門をくぐり、その神聖さや美しさを目で見て肌で感じ、わたしの見方は変わりました。ほんとうに大切なものは何か気づいたのです。確かにホテルはきれいだったかもしれません。でも、神殿とは比べようもありませんでした。死者のためのバプテスマを受けながら、この世のどんな楽しみよりも深い平安と喜びを感じました。

このとき学んだ教訓にとても感謝しています。この世の事柄に夢中になるのはたやすいことです。確かに魅力的ですが、そこから得られる楽しみは長くは続きません。わたしは今、ほんとうの幸福と平安は、天の御父の戒めを尊び、それに従うことによってのみ得られるということを、以前よりはっきりと理解するようになりました。■

エマ・ウィザーズはマサチューセッツ州ケンブリッジステーク、ケンブリッジ大学第2ワードの会員です。

賢明に生活し、^{じゅうぶん} 什分の一とささげ物とを納めることにより、備える

以 下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を分かち合い、あなたが教える人々にも同様に行なうよう勧めてください。

賢明な生活とは何でしょう。賢明な生活からどのような祝福が得られるでしょうか。

大管長 スペンサー・W・キンボール(1895-1985年)——「『賢明な生活』とは……次のような意味があります。すなわち、資源を節約すること、財政計画を立てること、健康管理に最善を尽くすこと、教育と雇用条件の改善に十分に備えること、家庭における生産と貯蔵に関心を払うこと、情緒の安定を図ることです。……

これらは正しく、人に満足を与えるものであり、わたしたちは主の勧告に従う必要があります。ですから、これらを実践しようではありませんか。……苦難の時代が到来するのは確実です。主はそのように予告しておられます。……知恵を用いて賢明に生活するならば、まるで主の手の中にいるかのように守られることでしょう。」(『福祉活動:福音の実践』『聖徒の道』1978年2月号、119-120参照)

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー——「わたしたちは繰り返し、自立について、負債について、借約について勧告を受けてきました。……

……緊急時に命を支えるための食物を

蓄えておこうではありませんか。しかし、パニックに陥ったり、過剰な行動に出たりすることのないようにしてください。あらゆる面で分別のある人になってください。……何よりも、生ける神とその愛される御子を信じる信仰をもって前進しようではありませんか。」(『リアホナ』「わたしたちが生きている時代」2002年1月号、85)

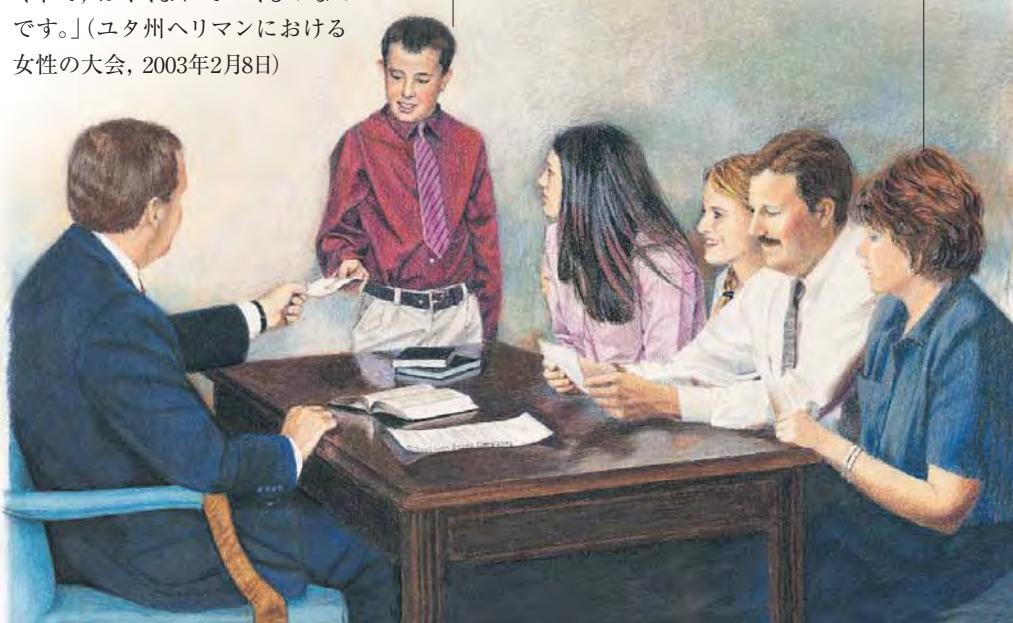
中央扶助協会会長 ボニー・D・パークン——「広告産業は、『欲しいもの』を『必要なもの』に変えるのがとても上手です。買う余裕のないものまで買わせようとする誘惑には、しばしば抗し難いものがあります。しかし、いつも什分の一を納めていれば、賢明な財政管理を学ぶことができるでしょう。什分の一を納めているからといって、収入の範囲内で生活する義務から解放されるわけではありません。家族が幸せかどうかは、どんな『物』を持っているかによって測られるわけではありません。家庭の幸福は、夫と妻が協力し、よく話し合い、問題を解決していく中で、はぐくまれていくものなのです。」(ユタ州ヘリマンにおける女性の大会、2003年2月8日)

什分の一とささげ物は、靈的および物質的な備えをするうえで、どのように助けとなるでしょうか。

マラキ3:10——「これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさい……。」

第一副管長 N・エルドン・タナー(1898-1982年)——「什分の一……は戒めであって、一つの約束を伴っています。すなわちこの戒めを守るならば、『地に栄える』という約束がそれです。この繁栄は物質的な事柄だけにとどまりません。健康や精神の活力、家族の一致、靈性の高揚なども含んでいます。」(『不変の原則』『聖徒の道』1982年3月号、48参照)

十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン——「惜しみなく断食献金を納めることにより、納めた本人は豊かに祝福を受け、主と監督のパートナーとなることができます。そして人の苦しみを和らげる手伝いをし、自立の手助けができるのです。……わたしたちは、恐らく自らのささげ物を評価し、主がわたしたちに対して惜しまれないように、わたしたちも主に対して惜しみなくささげているかどうかを判断すべきでしょう。」(『靈感によって与えられた教会の福祉』『リアホナ』1999年7月号、93参照) ■



質疑応答

お店で買うよりもっと意味のあるものをクリスマスプレゼントとして
家族に贈りたいのですが、何がよいでしょうか。

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

『リアホナ』からの提案

想 像してみてください。プレゼントをもらいました。大きくて、しゃれた包装がしてあり、しかも高価なものです。カードにはこう書いてありました。「メリークリスマス、別に深く考えてこのプレゼントを選んだのでもないし、手間をかけたわけでもありません。お金はあったので、特に犠牲を払ったというわけでもありません。どうぞ受け取ってください。」

もちろん、このようなカードを受け取ることはないでしょう。しかし、見栄えはしても、本来の目的を忘れたプレゼントを受けることはあるかもません。

受け取る側にとって意味のあるプレゼントにするには、どうしたらよいのでしょうか。プレゼントそのものは何であれ、大切なのは贈る側がどれだけ思いを込め、手間をかけ、犠牲を払ったかということです。

例えば、何日もかけて心を込めて書いた詩とか、両親が二人だけで時間を過ごせるように一晩幼い弟や妹の世話をあげる、などの贈り物は、幾ら高価であっても買うのに5分とかからなかった品物より、受ける側にとって意味があるのではないのでしょうか。

キリストは究極の贈り物である「贖い」を与えて

くださいました。

わたしたちはキリストについて証する贈り物、キリストが下さった賜物について証する贈り物をすることができます。

キリストと同じように自分をささげるとは、時間や才能、愛をささげる

ことです。

贈り物が高価だからといって、必ずしもそれが受け取る人にとって意味があるとは言えません。

贈ろうとしているものについて考えてみてください。相手は何か好きでしょうか、何を必要としているでしょうか、何を欲しがっているでしょうか。

奉仕することはとても有意義な贈り物です。毎日の家事などの手伝いを申し出ましょう。

アメリカの思想家であり詩人でもあるラルフ・ワルド・エマソンは次のように書いています。「指輪や宝石は贈り物ではない、本物の贈り物ができなかったことに対する弁解にすぎない。唯一の〔真〕の贈り物は自分自身のうちにある何かをささげることだ。」(The Complete Writings of Ralph Waldo Emerson〔1929年〕, 286)

キリストは贈り物の仕方をお教えになっています。聖典のどのページにも、救い主がだれかのために奉仕をし、御自分をささげておられる話が書かれています。主は時間を割いて、質問にお答えになりました。また才能を使って教えたり、病人を慰めたりされました。愛を与え、献身的に奉仕されました。わたしたちも時間や才能を使い、奉仕し愛を伝えて、自身をささげることができます。

キリストはまた、あらゆる賜物の中で最も大いなる賜物を与えてくださいました。すなわち贖いによって、わたしたちに永遠の命を受ける可能性を下さったのです(教義と聖約14:7参照)。わたしたちは人の罪を贖うことはできませんが、相手にキリストの賜物が伝わるような贈り物ができるかもしれません。では幾つかの提案をご紹介しましょう。読者からもたくさんの方の提案を頂いています。さらに、本誌6ペ



ージの「手作りのクリスマス」も参照してください。

★イエスの絵を贈る。聖句と救い主への気持ちを書き添える。

★「お手伝い券」を贈る。券と引き替えに家事などを手伝うことを約束する。

★家族に愛が伝わるようなことをする。

★人を赦す、または赦しを請う。

★励ましの手紙を送る。

★だれかにモルモン書をプレゼントする。

★相手がしたいことを一緒にしながら時間を過ごす。

★絵を描く、詩を書く、歌を作る。何を贈ろうかと真剣に考え、自分を

ささげるには、ただ店へ行って何かを買って来るよりも時間がかかるものです。ですから前もって計画を立てることが必要です。あなたが払う特別な努力には、それだけの価値があることが分かるでしょう。努力が報われて、喜びと御靈のぬくもりを感じることができます。

デビッド・O・マッケイ大管長(1873-1970年)は次のように教えています。「クリスマスの精神は、キリストの精神であり、心の中の兄弟愛と友情を燃え立たせ、思いやりある奉仕を行うように促してくれます。」(*Gospel Ideals* [1953年], 551)

読者からの提案



大切な贈り物の中にはお店で買えないものもあります。親切、愛、慈愛などは、買ったものよりもはるかに魅力的な贈り物です。わたしの家では家族の中から一人を選び、小さな袋を幾つか用意して、励ましの手紙やしてあげられる手伝いを書いたメモ、お菓子などを入れて贈っています。

カリфорニア州ロックリンステーク、
ロックリン第4ワード
ブリアナ・ディーバー、14歳

価値ある贈り物はたくさんありますが、いちばん大切な贈り物は、1冊のモルモン書と末日聖徒イエス・キリスト教会が眞実の教会であるという証です。感謝の心と誠実な態度であいさつを交わすとき、救い主の愛にあふれる顔を見ているような気持ちになります。

サモア・ウポル西ステーク、ラロビワード
フィリシェナ・ファーモー・サベリオ、19歳



今年のクリスマスには弟に手作りの品物を上げたら、もっと有意義だろうと思いました。何を作ろうか考えていたわたしに答えをくれたのは教会機関誌でした。ほとんどのお話には引用文と絵や写真の入った縦長の欄があります。厚紙と包装紙で作った台紙にはれば、すてきな「しおり」になります。そして空箱に引用文の切り抜きをはって、しおりを入れる箱にしました。

イリノイ州ネイバービルステーク、
ジェニーバワード
ジェニー・メインズ、16歳

わたしが上げようと思っているプレゼントは手作りです。どれだけ相手を愛しているかを書いた詩や手作りのカードなどです。大切なのは幾らお金をかけたかではなくて、どれだけ心を込めたかだと思います。

フィリピン・カラシャオ地方部、
カラシャオ第2支部
キャロル・T・バロ、21歳



救い主がなさっているように、わたしたちも隣人に計り知れない贈り物、つまり愛を贈ることができます。物質的なものは時とともに朽ちていきますが、だれかが心にかけていてくれることを理解する喜びはお金には代えられないし、終わりなく続くものです。

ブラジル・ビットリアステーク、



カリシアシカワード

ルイス・エンリケ・ケン・キエロス・ジュニア、17歳



「し ばらくの間、
仰々しい
うたい文句の
並ぶクリスマスプレゼント
のカタログのことは
忘れてください。
お母さんに贈る花束や
お父さんへのすてきな
ネクタイ、かわいらしい
人形や汽笛の鳴る汽車
のおもちゃ、長い間
首を長くして待っていた
自転車や『スタートレック』
の本やビデオもみんな
忘れてください。
そして、神から
与えられた、朽ちること
のない贈り物に思いを
向けてください。〔その
一つは〕愛という贈り物
〔です。〕」

第一副管長
トマス・S・モンソン
「贈り物」
『聖徒の道』1993年7月号、
62-63

去年のクリスマスに友達が電話
をくれて、福音と救い主への証
をしてくれました。そのときの
感動を今でも忘れません。あの
とき、わたしは宝石、衣類、おも
ちゃなどが最高のプレゼントではなく、最高
の贈り物はキリストが世にお生まれになり、
死のくびきに打ち勝って、今も生きておられ
るという証だと分かったのです。

ブラジル・サンパウロ・
パルケ・ピニエイロステーク、
ジャルディム・ロベルトワード
ジェシー・ロレナ・T・カルデナス、23歳

あなたの意見を聞かせてください。
青少年の読者の皆さんへ——下記の質問に対するあなたの意見を送ってください。住所、
氏名、年齢、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真(4センチ×5センチ以上のサイズ)を同封してください。

あて先——*Questions and Answers*
1/04, Room 2420, 50 East North
Temple Street, Salt Lake City, UT
84150-3220, USA
Eメールアドレス——cur-liahona-image@ldschurch.org
締め切り——2004年1月15日必着

質問

わたしはちっとも魅力的ではありません。
「そんなことはないよ」なんて慰めを言わな
いでください。天のお父様はなぜこんな顔と
体を下さったのでしょうか。わたしがどん
なに傷つくかお分かりにならなかつたのでしょ
うか。■

「わたしはまことのぶどうの木」

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」(ヨハネ15:5)

北アメリカ北東地域
地域幹部七十人
アンソニー・R・テンプル

ま だ結婚して間もないころ、わたしたち夫婦は菜園をしていました。庭を手入れする方法については何の知識も持ち合わせていませんでしたが、そんなわたしたちにも中庭の隅にある土地は豊かな収穫をもらってくれそうに見えました。実際、そのとおりでした。その土地の1か所にバナナスクワッシュ(訳注——カボチャの一種)を植えました。手入れらしいことはほとんどしなかつたにもかかわらず、スクワッシュのつるは勢よく伸び続け、長い垣根の先端部に沿って約10メートルから15メートルもの長さにまで生長しました。非常に大量のスクワッシュが取れました。初心者としては信じられないような成果でした。

聖典の中にはぶどう園やぶどう木について記された箇所がここかしこにあります。しかし、ぶどうの栽培はスクワッシュの栽培ほど容易ではありません。実り豊かなぶどう園を維

持していくには、適切な気候と高い栽培技術が必要なのです。

ぶどうは初期のヘブライ文化圏で広く栽培されており、聖地に広がる台地や丘陵は、ぶどうの木を栽培するのに理想的な環境にありました。土地はきちんと手入れされ、ぶどうの木は丘の斜面に植えられました。ぶどう園には動物や人間の侵入を防ぐために念入りに垣根が張り巡らされ、ぶどうの木はできるかぎり多くの実がなるように栽培され、剪定されました。

剪定はぶどう栽培で恐らく最も大切な作業でしょう。良い実を結ばない枝は切除します。ぶどうの親枝がある一定の長さになったところで、先端を切り取り、刈り込みます。わきに出て芽を育たせるためです。このような剪定作業によって枝先の生長が止まり、新しい枝に栄養が行き届くようになります。そして、このような側枝は生長すると、剪定をしなかった場合のぶどうの木1本になるのと同量の実をそれぞれが結ぶようになるのです。ぶどうの木の茎は頑丈で、地中深く根を張り、よく実をつける細長い側枝に栄養を与えます。



靈を肥やす栄養は
イエス・キリストから
摂取しなければ
なりません。
イエス・キリストは
あらゆる真理、
あらゆる善の源です。

ぶどう園とぶどうの木の象徴するもの

ぶどう園は聖典の中で象徴的に用いられることがよくあります。ヨハネによる福音書で、救い主はぶどうの木をたとえとして用い、主と主の弟子となる人々との関係はどのようなものかについて説明されました。

ゲツセマネへと出発されるに先立ち、救い主は使徒たちに主の弟子としていつもふさわしくあるにはどのような生活を送らなければならぬかを教えられました。あの神聖な時間に、救い主が教えられた様々な事柄の中に、主の弟子たる者は、その生活の基を完全に救い主とその教えに置く必要があるという教えがあります。

「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。

わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりのぞき、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。……

わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつな

がっていよう。枝がぶどうの木につながっていなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができない。

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながつておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。

人がわたしにつながっていないならば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。人々はそれをかき集め、火に投げ入れて、焼いてしまうのである。

あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。」(ヨハネ15:1-2, 4-8)

このたとえでは二つの原則を教えています。第1の原則は、キリストを基とする必要があるということです。さもなければ、



実を結ぶことはできません(4節参照)。生活が救い主の教えと調和していなければ、良い実を結ぶことはできないのです。それはぶどうの木から切り取られた枝に実がならないのと同じです。第2の原則は、たとえ義にかなった生活を送っていても、農夫の助けは必要だということです。この農夫はわたしたちのことを完全に理解し、わたしたちは比べものにならないほどの見識をお持ちになる御方です。そして、不用な部分を取り除き、剪定し、清めてくださいます(2節参照)。時として、この剪定は耐え難く思われるかもしれません。しかし、この過程を通してのみ、より豊かな実を結べるようになるのです。

人生の剪定は様々な形でやって来ます。病気が悪化することもあれば、肉体的限界を感じることもあるでしょう。期待どおり事が進まなかったり、人間関係で惨めな経験をしたり、または喪失感を味わったりすることもあるでしょう。しかし、当初はつらい出来事のように思えても、それを主への信頼を増し優先順位について考え直す機会としてとらえるなら、成長することができます。そのような困難な経験を通して、人はもっと豊かに実を結び、以前にも増して、まことのぶどうの木である救い主のようになることができます。

剪定の経験

わたしは生涯で幾度となく剪定される必要がありました。例を挙げれば、数年前、会社で昇格があるものと期待をかけていたときのことです。自分には十分な経験と技術があり、必要な勤続年数も満たしていると感じていて、昇進は間違いないと思っていたのです。

ちょうどそのころ、会社の最高責任者が代わりました。優先順位も目標も、わたしとは違う人物でした。いちばん大きな違い、それは週日に加えて週末も働くよう上級管理職にあった社員全員に期待した点です。当時わたしはステーク会長を務めていましたが、自分に託されたステークの会員のために精いっぱい奉仕するには、ある程度の時間を使って教会の責任を果たす必要があることを承知していました。

結局、期待していた昇進はいっさいなく、そのことで苦々しい思いを抱かないように必死で努力しなければなりませんでした。ほんとうにがっかりしました。しかし、とにかく立ち止まることなく、最善を尽くし、積極的な態度を維持しようと心に決めました。そうは言っても、自尊心はぐらつきました。能力の有無が問題になったからです。わたしの知っている教

人
生の剪定は
いろいろな形で
やって来ます。

病気が悪化することもあれば、肉体的限界を感じることもあるでしょう。人間関係で惨めな経験をしたり、または喪失感を味わったりすることもあるでしょう。しかし、当初は悲しい出来事のように思えても、それを主への信頼を増し優先順位について考え直す機会としてとらえるなら、成長することができます。

会の指導者は、多くを求められる教会の召しと多大な時間を要する会社の仕事を手際よく処理しているように見えました。

気が弱くなったときには、これほど多くの時間を教会に費やして、自分ははたして正しい選択をしているのだろうかと心配になりました。そのようなときに考えたのは、ほんとうに大切なことに心血を注ぐ必要があるということでした。また自分に何ができるかということだけではなく、何ができないかということについても考えました。教会での奉仕活動に時間を費やすのは必要なことであって、自分の追い求めている会社での職責と教会の召しを両立させるのは恐らく無理だろうと思いました。

主がわたしに語っておられたのは、絶えず選択し続ける義務がわたしにあるということだったと思います。出世できるように、自らの選びで必要以上の時間を仕事につぎ込んでいたとしたら、主の業から遠ざかってしまったことでしょう。今振り返ってみると、教会にあれほど多くの時間を割くことができたのはほんとうに大きな祝福だったと言えます。その後に続く歳月は人生で最も実り多いものとなりました。主を身近に感じましたし、証も強まりました。また、同じ地区に住む兄弟姉妹との関係を深めることができたのも大きな祝福でした。確かに、ほかの方法では得られないほどに豊かな実を結ぶことができたのです。

キリストにしっかりとつながって

わたしたちは生涯を通じて、ぶどうの枝のように、剪定されることになるでしょう。全知全能の父なる神が成長を見守り、そのきめ細かな保護の中で養っておられるのが分かります。何とすばらしいことでしょうか。

靈を肥やす栄養はイエス・キリストから摂取しなければなりません。キリストはあらゆる真理、あらゆる善の源だからです。キリストを離れては、わたしたちは何一つできないのです(ヨハネ15:5参照)。キリストとキリストの教えられた福音に焦点を合わせるときに、心はキリストの光に満たされます。そして、御靈の実が内に結実し、祝福が注がれるのです(ヨハネ15:7; ガラテヤ5:22-23)。自らの能力を最大限に発揮したいのならば、日々キリストに思いを向け、キリストの模範に従い、まことのぶどうの木であるキリストにしっかりとつながっていることです。■

復元された カートランド

カートランドの史跡がこの度復元されたおかげで、1831年から1838年の間に教会がこの地でどのように栄え、またどのような苦難に遭ったのかを思い描くことが容易にできるようになりました。

今 再び、灰置き場がストーニーブルック川のほとりに建っています。まさに、初期の末日聖徒たちがカートランドに定住したころの姿そのままで。この灰置き場(背景写真)は、末日聖徒イエス・キリスト教会によるオハイオ州カートランド史跡の復元作業で再建された建物の一つです。1831年、預言者ジョセフ・スミス(右挿入写真)は新しく組織された教会をニューヨーク州からオハイオ州に移しました。

初期の改宗者ニューエル・K・ホイットニーと妻エリザベス・アンの小さな住まい(右挿入写真——下)には、家の裏手にサマーキッチンと呼ばれる料理小屋、1階にホイットマー姉妹のおばがよく泊まったと言われる一人用の寝室、そして2階にはニューエルとエリザベス・アンが子供た

写真／ウェルデン・C・アンダーセン。『ジョセフ・スミス』アルビン・ギティンズ画。





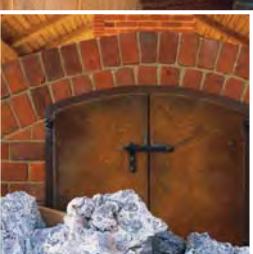
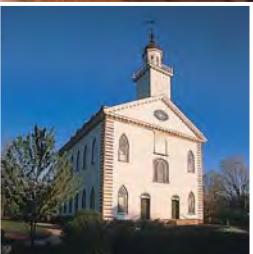


ちと一緒に寝たロフトがあります。

ニューエル・K・ホイットニーが創業した灰置き場（背景写真）は、その地域全体の繁栄に欠かすことのできないものでした。町の人々は、台所の灰、畑を焼いた後の灰、暖炉の灰をこの灰置き場に運び込んで、役に立つ資源に変えてもらっていたのです。川の水を使って灰から灰汁を取り、それを炭酸カリウム（右挿入写真——下）にして1バレル当たり100ドルほどで売られました。炭酸カリウムは、石けんやガラス、紙、火薬、革製品などを作るのになくてはならない原料でした。

1833年から1836年まで、聖徒たちの最重要課題はカートランド神殿（右挿入写真——上）の建設でした。カートランド神殿は現在、キリストの共同体〔訳注——以前は復元末日聖徒イエス・キリスト教会という名称であった〕が所有しています。預言者の兄ハイラムが鎌を取って神殿用地に生い茂る穀物を刈り、ほかの人々が柵の横木を取り外すことから神殿建設の作業は始まりました。それが終わると、近くの石切り場（右挿入写真——中央）に行って石を切り出しました。カートランド神殿の奉獻式では、天からの現れがありました。そして1836年4月3日、主はカートランド神殿で預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリの前に御姿を現されました。これに続いてモーセ、エライアス、エリヤが現れ、神権の鍵を回復したのです。

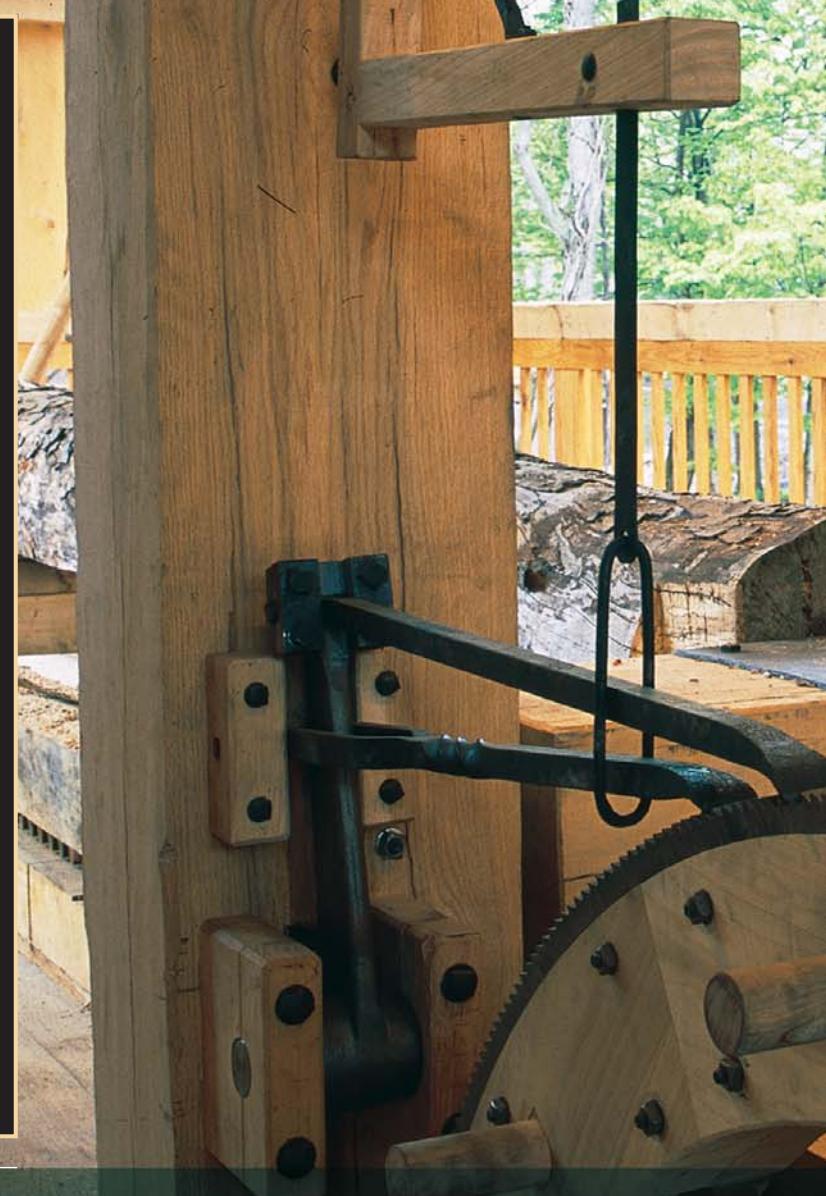






上は復元された、現在のカートランドの地図です。製材所(背景写真)は末日聖徒たちがニューエル・K・ホイットニーの所有地に建てたものですが、これは教会の製材所であって、個人が経営していたものではありません。この製材所は、現金を満足に持っていたなかった教会にとって、啓示で示されたとおりの神殿を建てる手段となったのです。製材所はまた、カートランドに移って来た多くの末日聖徒に働く場を提供しました。水車(右挿入写真——上)が丸のこぎりとろくろの動力源でした。ここで製材された材木が、神殿などの建築に使われたのです。当時の製材所は、1850年代初頭に火災で焼失しました。

学校(右挿入写真——中央・下)は活動の中心でした。学齢期の子供たちは校庭に出て、ボール遊びやジャックナイフ投げという名のゲーム〔訳注——ナイフをいろいろな位置から投げて、刀が地面に刺さるようにして遊ぶ〕、ビー玉遊びをしました。学校から子供たちに支給されたものの中には、つづり字教本、英語の読本、算数の本、石盤がありました。子供たちは、石けん石〔訳注——石盤に字を書くことのできる軟らかい石〕を削って自分の石筆を作りました。日曜日になると、聖徒たちはたいてい学校の校舎に集まって教会の集会を開きました。







ニューエル・K・ホイットニーが経営した雑貨屋(背景写真、右挿入写真——中央)も灰置き場も、1831年2月に預言者ジョセフ・スミスとエマ・スミスが到着するころには軌道に乗っていました。ホイットニーの店の人々は、自分たちの資産を惜しげなく教会に提供しました。預言者はホイットニーの店(右挿入写真——上)に居住していたころ、現在教義と聖約に収められている重要な啓示を幾つも受けています。またこの店の2階は、預言者の塾が開かれた所でもありました。確かにカートランドで主は、預言者が教会の礎を据えるのを助けておられたのです。

ジョン・ジョンソンはホイットニーの店の近くで宿屋を開いていました(右挿入写真——下)。後に教会を離れてしまうのですが、ジョンソン家の人々は、初期の改宗者の中でも特に教会に多大な貢献をした人々の中に数えられます。■



牧師と過ごした クリスマス

ブレーン・K・ガーリング

19 67年に、ドイツのヒルデスハイムで宣教師として働いていたときのことです。わたしは目前に迫るクリスマスを心待ちにしていました。その年のクリスマスイブは日曜日だったため、すばらしい集会や、クリスマスにふさわしい特別な行事が計画されていたからです。

ところがクリスマスの2週間前に、レ

ンツブルクに転任することが決まりました。同僚のファデル長老と同じく、そこはわたしにとって新しい任地でした。レンツブルクの会員はどのような人たちなのか、またどのようなクリスマスを迎えるのだろうかと思いを巡らせました。

やがて、レンツブルク支部は会員数も少なく、クリスマスイブには、特別な聖餐会以外、特に計画が立てられていないことを知りました。アパートの家主の女性が教会員で、クリスマスの夕食に招待してくれました。「今年のクリスマスはこんなものかな」と思っていましたが、間もなく状況は変わっていきました。

前任の宣教師たちは、訪問した人々の記録を残していました。その中には、再

度の訪問を待っている人たちの名前も記されていたのです。クリスマスの忙しい時期に、宣教師に会う時間を取りってくれる人を新たに見つけるのは非常に困難でした。そこで、まずこの記録に記された人々を訪問するのも悪くないと思い、記録を頼りに訪ねてみることにしました。一軒の家を訪問すると、ルベルト夫人という快活なすばらしい女性が迎えてくれ

同 僚とわたしは
ルベルト牧師のそばに
座り、職務について尋ね、
次に、わたしたちの教会について
話をしました。



ました。夫人はわたしたちを招き入れ、ルター派教会の牧師であった夫がその年の初めに亡くなつたことや、息子も牧師であることを話してくれました。クリスマスには息子が帰つて来るので、夫のいない二人きりのクリスマスを初めて迎えようとしているといふのです。話すうちに、ルベルト夫人はいきいきとひとみを輝かせ、クリスマスイブにわたしたちを招待したいと言いました。ほかに予定もなかつたため、招待を受けることにしました。

クリスマスイブには、すばらしい聖餐会に出席しました。救い主について語り、クリスマスの物語に耳を傾けました。同僚とともに聖餐式を執行しながら、救い主が与えてくださつた人生について深く考えました。

集会後、ルベルト夫人と息子に会いにルター派教会へ向かひました。公園を横切つて歩いていると、雪が降り始めました。わたしたちは立ち止まり、子供たちが家族と凍つた池でスケートをする様子を眺めました。あちらこちらにクリスマスの装飾用ライトがともり、クリスマスイブの礼拝を知らせる教会の鐘が鳴り響いていました。

ルベルト家族はルター派教会で待つていました。牧師の話を聞き、クリスマスキャロルをともに歌い、すばらしい御靈を感じました。教会堂は古く、わたしたちが歌つた何曲かのクリスマスキャロルができるよりも前に建てられたものでした。原語で歌う「聖し、この夜」が、その場をさらに特別なものにしました。

礼拝の後、ルベルト牧師の車で自宅へ向かひました。ルベルト夫人は夕食にガチョウ料理を準備していました。夫人が料理の最後の仕上げをする間、同僚とわたしは牧師のそばに座り、職務について尋ねました。ルベルト牧師は、キリスト

教のすべての教派を一つにまとめる運動に取り組んでいることを話してくれました。この運動に賛成する教派が数多くある中、反対し、敵対する者もあるとのことでした。

今度は、わたしたちの務めについて話をする番でした。まずモルモン書について話し、この教会がどのようにして回復されたかを説明しました。また、生ける預言者とイエス・キリストについて話し、キリストが救い主であられることを証しました。わたしたちの間に敵対心は存在しませんでした。お互いの信仰を軽んじる気持ちもありませんでした。そのときのことを思い出すと、ニーファイ第二書第25章26節が心に浮かびます。そのクリスマスイブに文字どおり、「キリストのことを話し、キリストのことを喜ぶんだ」のです。キリストこそが思いの中心にあり、キリストのためにともに集まつたのです。

頭を垂れ、食事の祈りをささげるとき、ルベルト牧師は、自分と同じキリストの僕であるわたしたちへの祝福を願い、イエスを求める人々のもとへ導かれるよう祈つてくれました。すばらしい晩餐でした。ガチョウのローストに様々な付け合わせ、それにドイツ風の特別なデザートが添えられていました。

ドイツでは昔から、両親だけが別室に行つて、飾り付けを終えたクリスマスツリーのろうそくに火をともします。準備が済むと、子供たちはその部屋に入り、美しいツリーとクリスマスプレゼントを見る能够なことです。ルベルト夫人は一人で居間に入り、大きな引き戸を閉めました。しばらくすると、ドアを開け、「息子たち」を招き入れました。

その部屋では、クリスマスツリーを飾るろうそくのはのかな光が、唯一の明かりでした。ルベルト夫人は同僚とわたし

にプレゼントを手渡しました。レンツブルクについて書いた本とお菓子でした。それから息子である牧師にプレゼントを渡しました。二人が、今は亡き夫と父親に短い黙祷をささげると、みんなで一緒に聖書を開き、ルカによる福音書からクリスマスの物語を読みました。御靈が一人一人の心に触れ、聖書が伝える神聖なメッセージに対する証を新たにすることができます。クリスマスキャロルとともに歌つたとき、その歌詞は、そこで語ったイエス・キリストへの愛、主の生涯とその教え、そして最も貴い贈り物である主の贍いの犠牲についての証となりました。

その晩、バスの停留所へと向かうわたしたちは、まさに夢見心地でした。サンタクロースは来ませんでしたし、慌ただしくプレゼントを買いに走ることもありませんでした。コンサートに行くことも、伝統的なクリスマスマ映画を見るかもしれませんでした。家族から遠く離れて過ごすクリスマスだというのに、転任のせいで家族からのプレゼントも間に合いませんでした。けれども、人生で最も幸福なクリスマスイブを過ごしたのです。生まれて初めて、思いを完全にキリストに向けたクリスマスでした。わたしがささげた唯一の贈り物は、主への証だったのでした。■

ブレーン・K・ガーリングは、ソルトレーク・イーストミルクリークステーク、イーストミルクリーク第4ワードの会員です。



「祝福文を読みなさい！」

セリア・アウグスト・デ・ソーザ

ク リスマスの精神を少しでも長くとどめるため、我が家では10月の終わりから11月の初めまでにクリスマスの飾り付けを済ませる習慣がありました。けれども、1993年のクリスマスは例外でした。

妊娠に気づいたのは10月でした。すでに4歳の娘と2歳の息子がいて、そのうえ経済的に余裕がなかったのです。わたしは悩みました。「赤ん坊が増えたら、一体どうやって暮らしていくべきかしら。」つわりも始まるといつの間にか主に文句を言い、不満をぶつけ、つぶやくようになっていました。そして祈りさえ怠るようになってしまったのです。その年は、いつものようなクリスマスの飾り付けをしませんでした。主イエス・キリストの降誕を思い出す気にならなかつたのです。わたしにとって、その年のク

リスマスはもはや存在しませんでした。

毎年12月25日には、母が家族全員を招いてごちそうを振る舞うのが習慣でした。けれどもその年、みんなと一緒に食卓に着いたものの、わたしは食事を取ることができませんでした。何もかもうんざりでした。悲しさとつらさのために家族の会話に入っていくことすらできず、早々に両親の家を後にしました。

数時間後、弟が我が家に駆けつけて、父の体調が悪くなったことを知らせました。急いで両親の家に戻りましたが、父はほとんど呼吸ができず、腕がしびれ、胸が激しく痛んでいました。心臓発作だったのです。すぐに父を救急病院へ連れて行くよう弟に頼みました。

家に帰ると、父が助かるように祈ってほしいと夫に頼みました。夫はわたしが祈るべきだと言いましたが、何日も祈っていなかつたため、天の御父はきっと聞いてくださらないだろうと感じました。賢明にも夫は、今こそ赦しを求めて御父に祈るべきであると説得しました。

ひざまずいたわたしは、激しく泣きま

急 いで両親の家に戻りましたが、父はほとんど呼吸ができず、腕がしびれ、胸が激しく痛んでいました。心臓発作だったのです。

した。病院へ向かう車中で、父は息絶えようとしています。わたしは、どうかクリスマスの日に父が亡くなることがないようにと天の御父に懇願しました。渾身の力と思いを込めて、主に赦しを請うたとき、「祝福文を読みなさい！」というささやくような声が聞こえました。この非常事態に一体どうして祝福文を読む必要があるというのでしょうか。それでも、祝福文を読むようにという促しは続きました。

わたしは立ち上がり、祝福文を取り出して読み始めました。すると驚くべきことが起こったのです。祝福文には、わたしが御父の愛娘であること、また現世で与えられた両親にとどても、大切な娘であることが、繰り返し述べられていました。また、もしわたしが現世での両親を敬うなら、天の御父は二人の寿命を長らえてくださり、両親はわたしの子供の成長を見る機会を得て、ともに子孫の繁栄を喜ぶだろうというものでした。

読み進めるうちに、理解の目が開かれました。父はまだこれから生まれてくる3番目の子供の成長を見届けていないばかりか、この子に会ってさえいないのです。父は今すぐに死ぬことはないと確信しました。祝福文がその日の答えだったのです。わたしは再びひざまずき、おなかの中にいる特別な子供、ギレルミを授けてくださったことに感謝しました。

時として人は盲目になったり、とても利己的になったりします。けれども、愛と優しさを備えた天の御父は、わたしたちが試練を通して学び、成長する機会を与えてくださるのです。愛する3人の子

供たち、夫、そして両親という家族とともに暮らせるのを日々御父に感謝しています。神とイエス・キリストが生きておられるのを知っています。また、御二方がわたしを愛し、忍耐してくださっているのを知っています。■

セリア・アウガスト・デ・ソーザは、ブラジル・サンパウロステーク、ピラソニアワードの会員です。

運転手からの贈り物

ノーマ・J・ブロードヘッド

「今 年のクリスマスは仕事を休めようだよ」と夫のケンは言いました。夫はトラックの運転手をしているため、子供たちとわたしは長年にわたって、夫抜きでクリスマスを過ごすか、夫の都合に合わせて少し遅れたクリスマスを祝ってきました。今では子供たちも成長し、皆結婚しました。そして今年のクリスマスは、それぞれの家庭で過ごすように伝えていました。子供たちがまだ幼かったころ、わたしたちがそうしていたように。

クリスマスに家族を残して働きに出かけなければならない父親のことを思い起すのに、そう時間はかかりませんでした。わたしはケンに言いました。「クリスマスと一緒に過ごせなかったときのこと覚えてる？ 仕事を出てもいいわよ。小さな子供のいるお父さんたちに、家族と一緒にクリスマスを過ごさせてあげたら？」

「ほんとうにいいのかい。君は一人で過ごすことになるよ。」

「何とかするわ。」

夫は、幼い子供を持つ父親の代わりに

クリスマスに働くつもりであることを配車係に告げました。この話を近くで別の運転手が偶然聞いていて、こう言ったのです。「君がそうするなら、ぼくもクリスマスに働く。子供たちはもう家にはいないからね。」

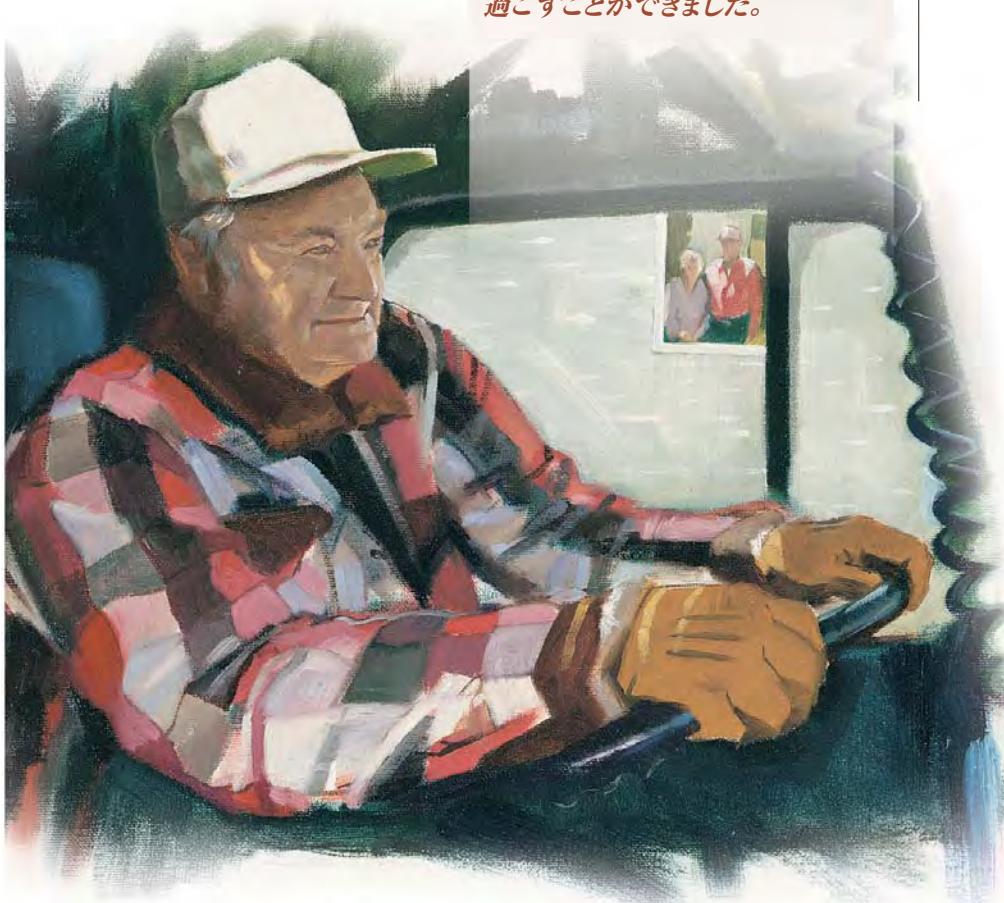
そして仕事の手配が行われました。するとこの話を聞いたもう一人の運転手が、クリスマスに仕事に出てもよいと言ってきたのです。3人のベテラン運転手がこの地域でもまれな悪天候の中で3日間働いたおかげで、幼い子供を持つ3人の父親が、家族とともにクリスマスを過ごすことができました。

一方わたしは、雪が降るのを見ながら、夫のことを考えていました。ケンはこの寒空に出て行く必要はなかったにもかかわらず、仕事をすることを選んだのです。そして、10人の子供のことや、ともに過ごしたクリスマスを振り返るとき、父親がいなかったクリスマスのことをひときわ鮮明に思い出しました。

3日間、わたしは本を読み、縫い物をし、クリスマス向けのテレビ番組を見ました。そして一人で食事をし、まだ包みを解いていないプレゼントを眺めて過ごしました。その年のクリスマスは、平安と幸福、そしてだれかのためにクリスマスの贈り物をささげた夫への感謝の思いに満ちていました。■

ノーマ・J・ブロードヘッドは、ソルトレーク・ミルクリークステーク、ミルクリーク第5ワードの会員です。

ケンと二人のベテラン運転手が、この地域でもまれな悪天候の中で3日間働いたおかげで、幼い子供を持つ3人の父親が、家族とともにクリスマスを過ごすことができました。



季節を
選ばない 贈り物

七十人
ダーウィン・B・クリステンソン



友情と愛、奉仕の贈り物をするのに クリスマスを待つ必要は ありません。

わ

たしたちきょうだい3人は、ブラックフットというアイダホ州の田舎町で育ちました。裕福ではありませんでしたが、お金がないからといってクリスマスを楽しめなかつことはありません。夜中のうちに目を覚ますと、両親の部屋にそっと入って行って聞いたものです。「もう起きてもいい？」すると二人が疲れた声で答えます。「だめ。まだ夜中の3時だよ。ベッドに戻りなさい。」

そう言われて、ベッドにもぐり込んで待ちました。ひたすら待って「よーし、もういいだろう」と思うと、もう一度起きて両親に尋ねました。「お父さん、お母さん。もう起きてもいい？」

すると二人が答えます。

「だめだよ。3時を10分過ぎただけじゃないか。ベッドに戻りなさい。」ようやく起きてクリスマスをお祝いできるまでの時間を、とても長く感じたものです。

まだ幼かったそのころ、わたしたちはクリスマスを祝うことで少しづつ救い主の大切さを理解するようになりました。救い主との関係を深めていくことによって、良い選択をし、人生の中でたくさんのすばらしい贈り物を受け取ることができました。

良い友という贈り物

真の友情はすばらしい贈り物の一つです。成長の過程で、何人かの良い友人ができました。福音がわたしたちのきずなを強め、優れた指導者が正しいことを選べるよう助けてくれました。やんちゃな男の子たちの扱いを心得たすばらしい日曜学校の教師に、イーバ・マンウォーリング姉妹がいました。わたしたちを相手に忍耐強く接してくれる姉妹はそれほど多くなかったと思いますが、マンウォーリング姉妹は辛抱強く導いてくれました。また、ご主人のマンウォーリング兄弟もボーイスカウトの指導者として、

最高の進級記章であるイーグルスカウト(訳注——アメリカボーイスカウトの最高の進級記章。日本の富士スカウトに当たる)になれるように助けてくれました。すばらしい友人と指導者に恵まれたことに感謝しています。わたしが良い選択を、とりわけ伝道に出るという選択ができるよう助けてくれました。

ブラジルという贈り物

宣教師としてブラジルの地を初めて踏んだとき、美しい、緑豊かな国土と、率直で愛に満ちた謙虚な人々がたちまち好きになりました。

伝道には多くの困難が伴いました。あるよその教会の代表者は、若者たちをけしかけ、わたしたちに向かって石を投げさせました。留置所に入れられたこともあります。その地の人たちは教会に入るとのけ者にされるため、教員になるのは大変なことでした。1950年代の終わり、ブラジルにステークが一つもなかったころのことです。

今ステーク数は200に迫ろうとしています。伝道部長として、また地域会長会の一員として家族とともにブラジルに戻り、この国における教会の奇跡的な発展ぶりを目の当たりにしてきたことは霊的な祝福です。

宣教師としての最初の伝道が終わり、帰路は船でした。甲板に立ち、水平線のかなたにブラジルが消えていくのを見ながら、わたしは泣きました。ブラジルにはいつも喜び勇んで行きますが、ブラジルの地に別れを告げるのは、いつまでたっても容易なことではありません。

愛という贈り物

伝道から帰還したわたしは、ステーク大会で、サンドラ・ジョーリーン・ライアンという美しい女性と出会いました。わたしたち二人はポカテロにあるアイダホ州立大学の学生で、住んでいる所も同じブラックフットでした。その通学でいちばん良かったことといえば、二人とも同じ送迎車に乗るグループに振り分けられたことです。わたしは、サンドラが神の大切な娘の一人であることを感じました。また、彼女こそ自分が



救い主との関係を深めていくと、良い選択をすることができ、多くのすばらしい祝福を得ることができます。

永遠の結婚は
互いに贈ること
のできる
最高の贈り物です。

結婚すべき人であると、確信しました。ある日、通学の車の中で隣に座り「ねえ、君が文通している宣教師に『ディア・ジョン』〔訳注——ほかの人と結婚することを宣教師に告げる手紙〕を出すべきだよ。だって、いざねばく結婚するって、分かってるんでしょう」と言ったのです。実際にそれほど簡単に事は進みませんでしたが、2年後にわたしたちは結婚しました。

12月に婚約したことで、クリスマスは特に意義深いものとなりました。永遠の結婚はわたしたち二人が互いに贈ることのできる最高の贈り物です。わたしと子供たち、その夫や妻たち、そして孫たちにも愛という贈り物をくれる妻は、わたしたちにとってすばらしい祝福となっています。妻

の愛は家族の一致を支える大きな力です。

神権の力という贈り物

結婚して数年後、サン德拉とわたしは3人目の子供を授かりました。スティーブンという名前の小さな男の子で、クリスマスの3日前に生まれました。生まれたときスティーブンは肺に空気を取り込むことができませんでした。しかし、息子には幼いながらも勇敢な霊が備わっていました。息子は懸命に生きようしましたが、医師たちからは生存の期待は持てないと言われました。監督はワードの会員に、ともにスティーブンのために祈ってください、と呼びかけてくれました。

この特別なクリスマスイブ最大の贈り物は、スティーブンに祝福を受けられたことです。祝福をした後、「サン德拉の病室に行って、スティーブンは大丈夫、心配しなくていいと言いなさい」という御霊の促しを感じました。クリスマスの朝、医師たちは「あの子はもう大丈夫です」と伝えてくれました。しかし、一体何が起ったのか、医師らにはまったく理解できません。奇跡でした。わたしは神権の力にとても感謝しています。スティーブンの命が保たれたことは、わたしたち家族にとって最高のクリスマスプレゼントだと思っています。

大いなる贈り物

クリスマスに頂く大いなる贈り物、それは、救い主の降誕を思い出すことです。主はわたしたちへ御父が下さった贈り物です。成長期に救い主を身近に感じながら生活することで、良い決定を下すことができるようになります。皆さんは主を失望させたくないでしょう。若いうちに証をはぐくむことができれば、主の奇跡的な犠牲にいつも感謝の念を抱くことができます。

救い主を身近に感じながら生活すること、また、救い主はいつもそばにいて愛してくださっていると知ることは、とても大切です。主の模範と教えに従うことによって、クリスマスにすてきな気持ちを味わうことができ、さらに、すばらしい祝福を永遠に受けることができます。救い主が生きておられることを証します。愛する兄弟、姉妹の皆さん、クリスマスおめでとう。■



御存じでしたか？

生けるキリスト

「生けるキリスト——使徒たちの証」^{あかし}を読むこと、または暗記することは、このクリスマスに主に近づく方法の一つです。これは『リアホナ』(2000年4月号, 2-3参照)か、『若人の強さのため』の巻末にあります。

ジョージア州ジョーンズボロステーク、ホワイトウォーターワードの若い女性は「生けるキリスト」を暗記する目標を立てました。そして救い主についてさらに学びながら御靈^{みたま}を感じました。また、ステークの若い女性キャンプでは、証会で使徒たちの宣言を暗唱す



ることができ、ほかの少女たちを驚かせました。

彼女たちは、使徒たちの言葉でこう証しました。「全人類の歴史の中心であるイエス・キリストの生涯〔は〕、ベツレヘムで始まったのでもなければカルバリで終わったのでも〔ありません〕。イエス・キリストは御父の長子、肉における独り子、世の救い主でした。……イエス・キリストは世の光、命、そして希望です。イエス・キリストの道は、この世においては幸福に、後の世においては永遠の命に至る道です。わたしたちは御子という比類ない贈り物を授けてくださった神に感謝しています。」(『リアホナ』2000年4月号, 2-3)



指導者へのヒント

自らをささげることは、クリスマスの真の精神です。完全な指導者であるイエス・キリストは、御自身の命をささげて、人が永遠の命という神からの最高の賜物を受けることを可能にしてくださいました(教義と聖約14:7参照)。今年の

クリスマスに救い主の降誕の話を読むとき、ぜひ地上における主の務めについても読んでみてください。人に仕える方法を探すときに、主の示された無私の奉仕の模範から導きが得られるでしょう。



それは12月の出来事でした

教会の歴史の中で12月に起こった重要な出来事を幾つか紹介します。

1805年12月23日——バーモント州シャロンでジョセフ・スミス・ジュニアが生まれました。

1847年12月5日——アイオワ州ケインズビルで大管長会が再組織されました。大管長としてブリガム・ヤング、

副管長にはヒーバー・C・キンボールとウイラード・リチャーズが支持されました。

1895年12月9日——メキシコ最初のステークがコロニアフアレスにできました。

1978年12月9日——ガーナに初の専任宣教師が到着し、89人にバプテスマを施しました。



大いなる喜びの おとずれ

「その出典が神聖な書物であれ、あるいは世俗の書物であれ、あらゆる宣言文の中で、夜、羊の群れの番をする羊飼いたちに天の御使いが告げた知らせほど、重要な意味を持つものはありません。

『御使は言った、「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。

きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このたこそ主なるキリストである。』』(ルカ2:10-11)

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト「愛の形」
『リアホナ』1999年12月号, 3

上から時計回りに——「キリストと金持ちの若い役人」の一部。ハイレンリッピ・ホフマン画。「羊飼いたちに現れた御使い」ブルース・マーティン画。写真/ドン・L・サークル。絵/ポール・マン。「ジョセフ・スミス」アルビン・ギティンズ画。「神殿で足の不自由な人を癒されるイエス」ジェームズ・J・ティント画。

『リアホナ』 2003年12月号 の活用法

家庭のタペのためのアイデア

- 「イエス・キリストの神性」12ページ——オーソン・F・ホイットニー長老は、夢で見た睡っている使徒たちが、若い宣教師である自分の働きぶりを表していることを知りました。家族に、「[それぞれの責任において] 眠って」いないようにいつも気をつけるにはどうしたらよいか、考るよう言ってください。
- 「あなたが好きな10の理由」10ページ——エリックが家族に贈ったクリスマスプレゼントについて読みます。ほかにどのようなものを家族に贈ることができるか話し合ってください。
- 「あふれる恵み」18ページ——一つか二つの話を選び、一緒に読みます。そして、^{あかし}什分の一の律法について^{あかし}証をしてください。什分の一の律法に従うことによって得た祝福を、家族に話してもらってください。

●「神のあかし人となる」F15ページ——ヘンリー・B・アイリング長老は、宣教師の訪問を断った友人について話しています。後にその友人は長老に感謝しました。とても大切だと信じていることを伝えようとしたからです。友達に教会についてもっと知つてもらおうとするとき恐れを感じことがあります。その恐れに打ち勝つために、この話はどのような助けとなるでしょうか。家族に尋ねてください。



今月号に採り上げられているテーマ

Fは『フレンド』の略

愛	6, 10, 40, 44
あかし	
証	12, 26
あがな	
贈り	12
イエス・キリスト	
1, 2, 12, 29, 44, 47, F2, F4	
いや	
癒し	40, 44
教え	48
改宗・改心	F6
開拓者	F6
家族関係	6, 10, 26
家庭のタペ	48
犠牲	40, F6
逆境	29
教会歴史	32, 47
クリスマス	
1, 2, 6, 10, 26, 40, 44, F2, F4, F8	
使徒	12, F10
指導性	47, 48
什分の一	18, 25
祝福	18, 25
祝福師の祝福	40
ジョセフ・スミス	32
自立	25
神殿と神殿活動	24, F16
新約聖書	29, F10
聖約	F15
伝道活動	12, 40, 44, F10, F15
平安	1
奉仕	6, 40
模範	2
友情	44
優先順位	29
預言者	2

クリスマスにまつわる体験談を募集しています

今年のクリスマスはどんな贈り物をしますか。すばらしいクリスマスの体験談をお持ちの方は、クリスマスプレゼントとして編集部へ送ってください。匿名での奉仕でしたか。どのように救い主に近づくことができましたか。皆さんの経験を『リアホナ』読者に紹介してください。あて先は以下のとおりです。cur-liahona-imag@ldschurch.org または Christmas Experiences, Liahona, Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA.



「カートランド神殿の建設」ウォルター・レーン画

1832年の暮れから1833年初頭にかけて、主は聖徒たちに「神の家を建てなさい」とおっしゃいました（教義と聖約88：19）。そして1833年6月、主は次のように言されました。
「わたしの思いは、あなたがたが家を建てることである。あなたがたは、わたしの戒めを守るならば、それを建てる力を持つであろう。」（教義と聖約95：11）



「**ペ** ツレハムでの幼子の誕生とともに、
おさなご
大いなる贈り物、どんな武器よりも力強いもの、
カイザルの貨幣よりも長く存続する富が
もたらされました。この幼子は王の王、主の主、
約束のメシヤになられる御方、つまりこの方こそ
神の御子イエス・キリストだったのです。」トーマス・S・
モンソン副管長「クリスマスの贈り物」2ページ参照

